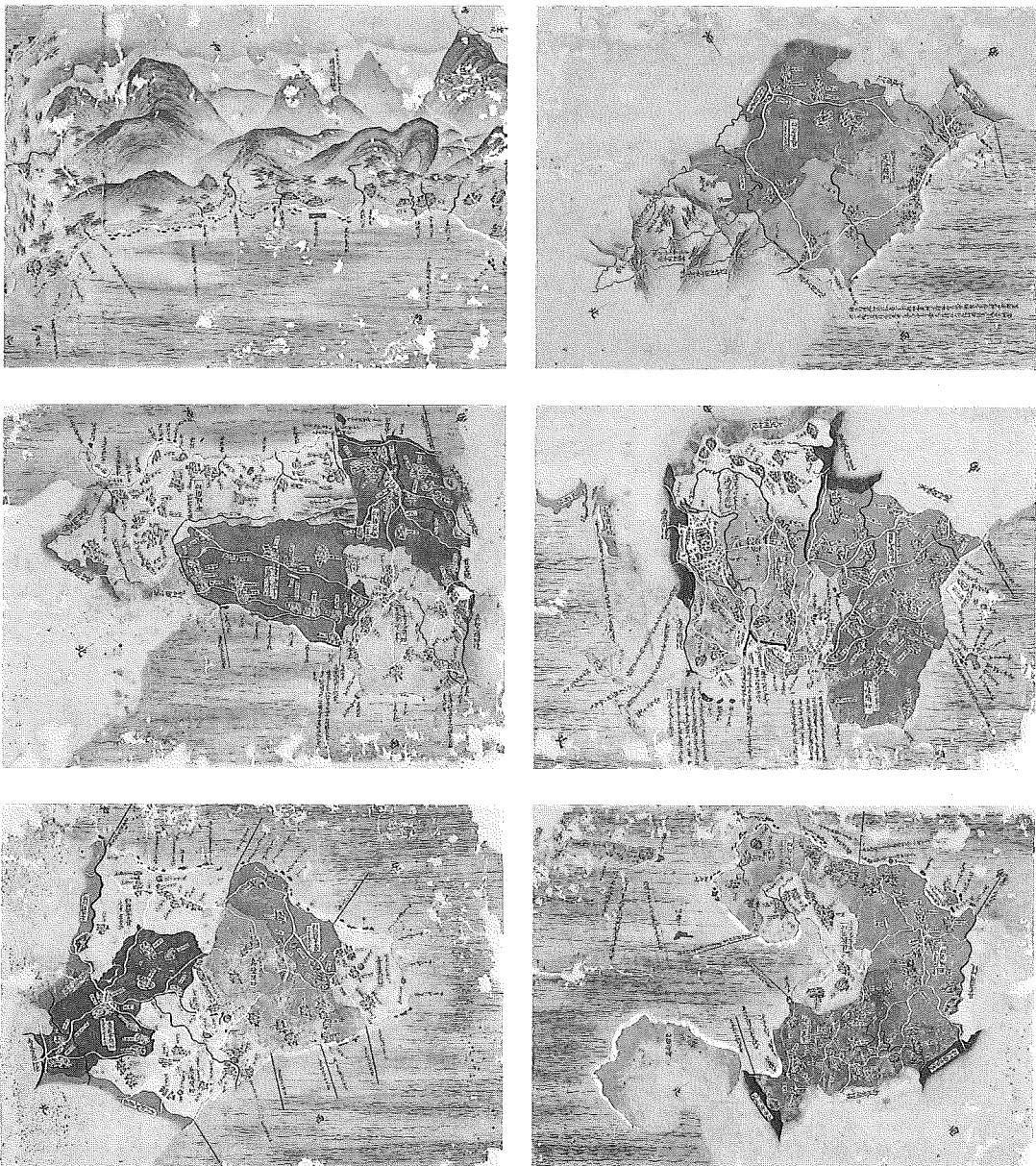


ISSN 0385-0293

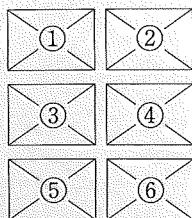
沖縄県立博物館年報

No.37



2004

沖縄県立博物館



表紙：琉球国惣絵図

- ① 国頭間切
- ② 北谷間切、越來間切
- ③ 中城間切、宜野湾間切、浦添間切、西原間切
- ④ 南風原間切、豊見城間切、真和志間切、小祿間切
- ⑤ 喜屋武間切、高嶺間切、真壁間切、兼城間切
東風平間切、摩文仁間切、具志頭間切
- ⑥ 大里間切、佐敷間切、知念間切、玉城間切

序

近年は生涯学習活動の推進や完全学校週五日制・総合的な学習の時間の実施により、多くの人々から博物館を利用する機会が増えております。当博物館も多くの県民の要望に応えられるよう努力して参りました。

昨年度は沖縄の染織をテーマとした特別企画展「沖縄織物へのメッセージ田中俊雄の研究ー」や企画展「旅する種子ー運ばれるための巧妙なしきかー」を開催しました。また企画展「戦前・戦後の文化財保護ー仲座久雄の研究をとおしてー」を開催し文化財保護の意味や意義について考える機会をもつことができました。また博物館の新しい活動として、当博物館が企画し国立民族学博物館と共同開催した「あじまあ展」では、県外の人々にも広く沖縄のことを紹介することができました。

博物館活動の大きな柱である教育普及活動では、子どもを対象とした体験学習だけでなく、教員や一般の方々を対象とした「総合的な学習の時間のための体験学習」を実施しました。また伊平屋村で移動博物館を開催し、文化講座、博物館シアター等を通して多くの皆さんと交流を持つことができました。

博物館新館も今年度から着工し、平成19年度に開館となります。新館建設というハードの面だけではなく展示や教育普及活動などのソフトの面も更に発展できるよう努力していく所存であります。今後ともより一層のご指導、ご協力をお願い致します。

平成16年6月

沖縄県立博物館
館長 當眞嗣一

目 次

序

I 概 要

1 沿革	1
2 日誌(抄)	3
3 施設・設備	5
4 組織	7
5 沖縄県立博物館協議会	9
6 予算	10

II 入館者数

1 入館者数	11
2 県内外児童生徒学生団体見学者	14

III 研究調査等の活動

1 調査研究の概要	16
2 博物館総合調査	16
3 調査研究	17
4 講演等	19
5 著作論文等	21
6 職員研修	21

IV 展示活動

1 展示活動の概要	23
2 常設展	23
3 特別企画展	24
4 企画展	28
5 移動博物館	39
6 あじまあ展	43

V 教育普及活動

1 教育普及活動の概要	44
2 博物館文化講座	44
3 衛星通信を利用したエル・ネット「オープンカレッジ」	47
4 博物館シアター	48
5 博物館体験学習教室	49
6 ポランティア活動	53
7 支援活動	54

VI 博物館学芸員実習

VII 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高	57
2 2003(平成15)年度新収蔵資料高	57
3 2003(平成15)年度新収蔵資料目録	58
4 所蔵の指定文化財	59
5 博物館収蔵資料整理事業	60
6 博物館新館移転資料整理事業	61
7 修理事業	62
8 化石資料受入事業	62
9 資料貸出	63
10 煙蒸処理	66

VIII 新館展示調査等

IX 刊行物

X その他の活動

1 沖縄県博物館協会	69
2 沖縄県立博物館友の会	70

XI 関係法規抄録

I 概 要

1. 沿革

〔前史〕

昭和11年（1936）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月、米国海軍軍政府は石川市東恩納の地に「沖縄陳列館」を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年6月頃首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

〔創設〕

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

〔発展〕

昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）に2階部を増築、展示スペースを拡充し、現在に至る。

〔あゆみ〕

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。

昭和22年（1947）12月、前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。

「沖縄民政府立首里博物館」（以下「首里博物館」とする）に改称される。

昭和28年（1953）3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリー来琉百周年記念事業の一環としてペルリー記念館も博物館に附設して落成、贈呈される。

昭和30年（1955）9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。

昭和40年（1965）大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。

昭和41年（1966）10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建ての新館を建設し、移転。11月に開館。

昭和47年（1972）2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。

昭和48年（1973）2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設。

昭和51年（1976）4月、創立30周年記念式典を行う。

昭和55年（1980）1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。

11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。

昭和56年（1981）3月30日、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。

10月、特別展「沖縄の美—日本民藝館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和57年（1982）5月、新たに常設展として自然部門を設置。

10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展 熊本の歴史と文化」開催。

昭和58年（1983）11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

昭和60年（1984）11月、特別展「グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催。

昭和61年（1986）2月、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薰コレクション」開催。

昭和62年（1987）10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故

作家」開催。

12月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の400年」開催。

12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。

昭和63年（1988）8月、特別展「ヤンバルの自然」開催。

11月、特別展「三線名器100挺展」開催。

平成元年（1989）11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。

平成2年（1990）1月、特別展「大アンデス文明展」開催。

平成3年（1991）10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。

平成4年（1992）6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。

8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。

10月、特別展「琉球王国展」開催。

平成5年（1993）1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。

8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。

平成6年（1994）7月、特別展「子どもの世界」開催。

平成7年（1995）6月、戦後50周年記念特別展「蘇る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。

平成8年（1996）7月、特別展「大久米島展」開催。

12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催創立50周年式典を行う。

平成9年（1997）4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。

平成10年（1998）7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。

11月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催。

平成11年（1999）8月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催。

10月、企画展「日本の技—伝統のかたち」（第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展）開催。

平成12年（2000）2月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から」開催。

7月、特別展ミット開催記念「大琉球展」開催。

11月、特別展ハイ移民100周年記念「日系移民1世紀展」開催。

平成13年（2001）3月、企画展「工芸王国一人・技・心」開催。

11月、特別展「かざりとかたち展」開催。

平成14年（2002）9月、特別展「港川人展」開催。

10月、企画展「沖縄の文化財展」開催。

平成15年（2003）2月、企画展「おきなわナースものがたり」開催。

7月、企画展「旅する種子～運ばれるための巧妙なしきけ～」開催。

10月、特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」開催。

平成16年（2004）2月、企画展「戦前の文化財保護～仲座久雄の活動～」開催。

〔歴代館長〕

東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫（昭和21年4月～28年3月・東恩納博物館）

豊平 良顕（昭和22年12月～23年3月・首里博物館）

原田 貞吉（昭和23年8月～28年3月・
ク）

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉（昭和28年3月～30年5月）

琉球政府立博物館

山里 永吉（昭和30年5月～33年8月）

金城增太郎（昭和33年9月～36年12月）

大城 知善（昭和37年2月～44年11月）

外間 正幸（昭和44年12月～47年4月）

沖縄県立博物館

外間 正幸（昭和47年5月～56年3月）	糸数 兼治（平成6年4月～8年3月）
大城徳次郎（昭和56年4月～58年3月）	當間 一郎（平成8年4月～11年3月）
大城 立裕（昭和58年4月～61年3月）	大城 将保（平成11年4月～12年3月）
大城 宗清（昭和61年4月～平成4年3月）	平田 與進（平成12年4月～14年3月）
宜保榮治郎（平成4年4月～6年3月）	當眞 嗣一（平成14年4月～）

2. 日誌抄（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

○平成15年

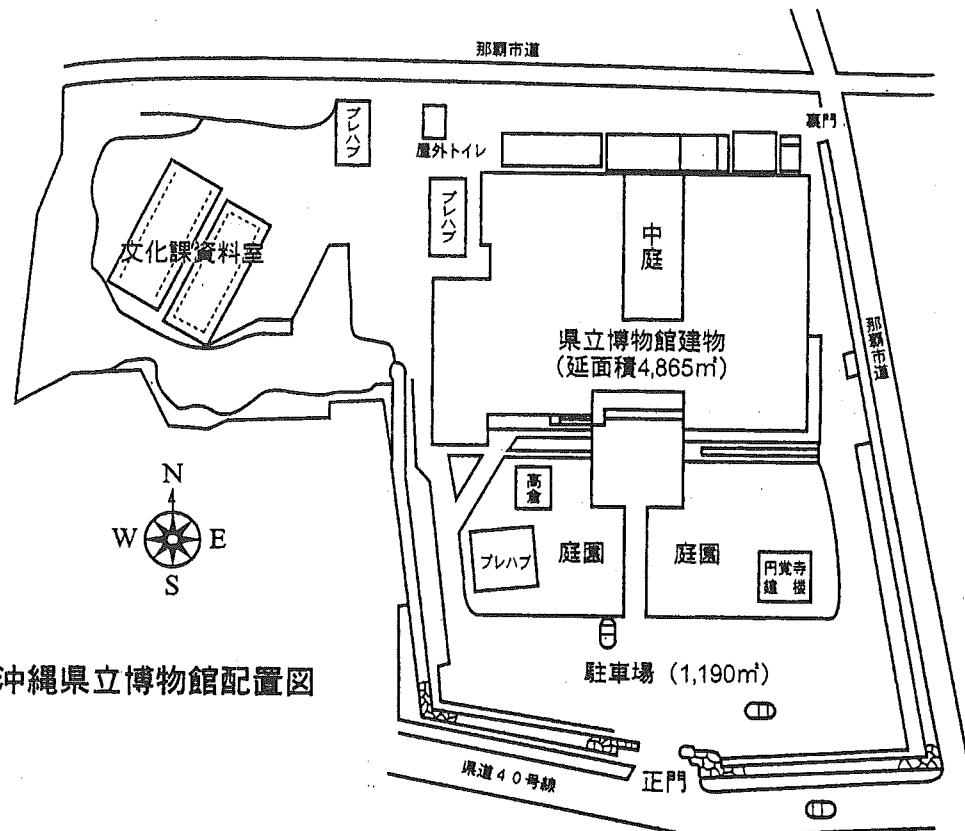
- 4月 8日 県職員新規採用研修
- 4月 21日 県文化財保護審議会第1専門部会、館所蔵資料調査
- 4月 22日 市町村新規採用職員研修
- 5月 1日 九州国立博物館（仮称）設立準備室 総主幹来館
- 5月 6日 ICOM国際博物館の日パネル展（～5／25）
- 5月12日 煙蒸作業の為休館（～5／16）
- 5月26日 県立博物館広報展〔会場：県庁1階ロビー〕（～5／30）
- 6月 2日 第1回博物館学芸員実習〔実習生：4名〕（～6／13）
- 5日 平成15年度沖博協理事会・総会（会場：名護市民会館）
- 10日 企画展「新収蔵品展」開催（～7／6）
- 12日 平成15年度九博協理事会・総会〔会場：佐世保市〕（～6／13）
- 市町村新規採用職員研修
- 17日 平成15年度九国博誘致推進本部総会〔会場：福岡市〕
- 19日 平成15年度全国博物館長会議〔会場：東京都〕
- 20日 平成15年度全国科学博物館協議会総会〔会場：東京都〕
- 24日 琉米歴史研究会寄贈「琉球国惣絵図」贈呈式〔会場：県庁舎知事室〕
- 7月13日 高校生就業体験実習（首里東高校1年生）
- 15日 企画展「旅する種子展～運ばれるための巧妙なしきけ～」開催（～8／31）
- 24日 九州国立博物館誘致委員会〔会場：福岡市〕
- 8月28日 市町村新規採用職員研修
- 9月 2日 高知県議会厚文委員会視察
- 12日 原田禹雄氏寄贈『四本堂詩文集』（蔡文溥）原本贈呈式
- 24日 職場体験学習実習（長嶺中2年生）
- 10月 2日 国立民族学博物館「あじまあ展」開催
〔国立民族学博物館・県博共催、会場：国立民族学博物館〕（～6／1）
- 16日 九州博物館協議会学芸員・事務職員研修〔会場：鹿児島県〕
中国第一歴史档案館副館長来館
- 17日 国頭村教育委員会来館
- 20日 第2回博物館学芸員実習〔実習生：12名〕（～10／31）
- 22日 沖博協秋期研修会〔会場：奄美市〕（～10／24）
- 23日 知念村資料館検討委員会委員来館
- 24日 国立公文書館長来館
- 28日 特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」開催（～12／7）
- 29日 企画展「沖縄の文化財展」開催（～11／24）
- 11月 3日 「文化の日」無料入館（入館者数：1,854人）
パネル展「首里・那覇のむかし風景」
上映会「復帰前に収録された古典芸能」
- 6日 上海档案館長来館
- 7日 那覇地檢檢事正来館

- 11日 韓国済州道博物館来館
19日 福岡県議会九国博設置対策調査特別委員会来館
21日 第28回移動博物館開催〔会場：伊平屋村〕（～10／22）
27日 全国生涯学習フェスティバル「まなびピア2003」体験学習コーナー（～11／28）
12月 4日 東京国立近代美術館職員来館
11日 野口英世記念館職員来館

○平成16年

- 1月 18日 ヨセフ・クライナー ポン大学教授来館
20日 岡山市議会議員来館
2月 3日 消防訓練講習会
4日 三重県議会議員来館
5日 函館市議会議員来館
10日 企画展「戦前戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」開催（～2／29）
12日 県定期監査（職員監査）
17日 法政大学国際日本学研究所長来館
20日 北海道ウタリ協会平取支部来館
3月 1日 応急手当講習会（講師：那覇市消防本部）
5日 鹿児島県和泊町文化財保護審議委員会委員来館
9日 企画展「工芸王国－てわざの今、そして未来へ」開催（～3／21）
10日 文部科学省生涯学習局総括官来館
16日 県委員監査
18日 平成15年度沖縄県立博物館協議会
25日 岡山市議会議員来館
26日 鈴鹿市議会議員来館

3. 施設・設備



沖縄県立博物館配置図

施設規模

●敷地面積	11,267m ²
●建物延べ面積	4,865m ²
1階及び講堂部分	2,530m ²
2階部分	1,926m ²
地下部分	409m ²
●展示面積	1,590m ²
1階	632m ²
2階	958m ²
●ロビー面積	415m ²
(非常口への廊下も含む)		
●収蔵庫面積	1,048m ²
●駐車場面積	1,190m ²
●庭園面積	1,612m ²
●講堂 (客席のみ)	376m ²
客席数	235席	

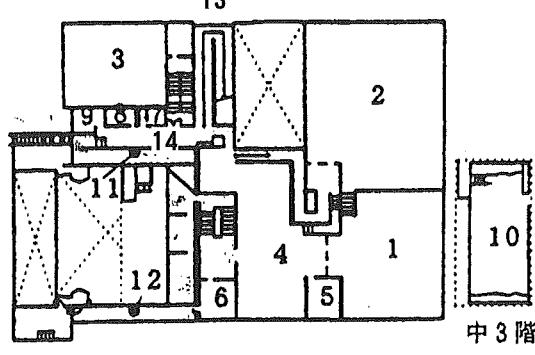
●空調能力	
ウォーターチーリングユニット《空冷式》	
125,000Kcal/h × 2基	
エアハンドリングユニット	6基
161,028Kcal/h (講堂用)	
34,658Kcal/h (第3・4展示室系)	
30,000Kcal/h (第1展示室系)	
25,830Kcal/h (地下収蔵庫)	
21,270Kcal/h (1階収蔵庫)	
18,263Kcal/h (第2展示室系)	
パッケージ型ユニット	4台
●受変電設置	
電灯 Tr	1φ3W 30KVA × 1基
電灯・動力Tr	3φ4W 100KVA × 1基
動力	3φ3W 250KVA × 1基
●契約電力	203KW

【2階】

番号 室名

1	美術工芸展示室	274m ²
2	民俗展示室	446m ²
3	漆器収蔵室	170m ²
4	企画展示室	257m ²
5	空調機械室	29m ²
6	コンピューター室	38m ²
7	化粧室(女)	6m ²
8	化粧室(男)	10m ²
9	空調機械室	17m ²
10	化石収蔵庫(中3階)	120m ²
11	貝類収蔵庫	35m ²
12	陶器収蔵庫	38m ²
13	スロープ	75m ²
14	廊下	57m ²

図1



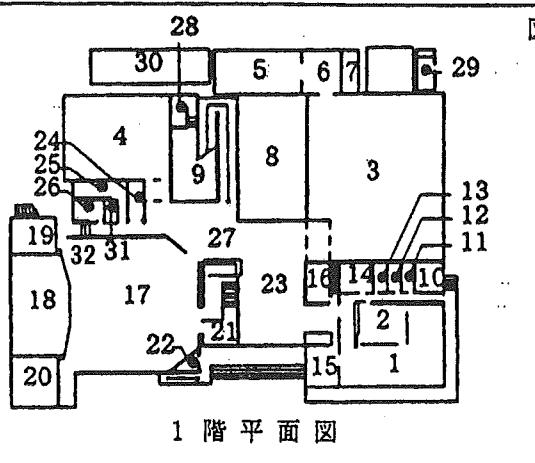
2階平面図

【1階】

番号 室名

1	事務室	130m ²
2	会議室	40m ²
3	考古・歴史展示室	466m ²
4	自然史展示室	189m ²
5	収蔵庫	120m ²
6	荷解場	32m ²
7	陶磁器収蔵庫	11m ²
8	中庭	152m ²
9	厨子甕収蔵庫	91m ²
10	休憩室	16m ²
11	湯沸室	8m ²
12	化粧室(女)	8m ²
13	化粧室(男)	9m ²
14	図書室	21m ²
15	館長兼応接室	26m ²
16	案内コーナー	20m ²
17	講堂(客席)	376m ²
18	ステージ	128m ²
19	控室	19m ²
20	控室	37m ²
21	講堂出入口	48m ²
22	守衛室	7m ²
23	ロビー	415m ²
24	倉庫	14m ²
25	化粧室(女)	24m ²
26	化粧室(男)	15m ²
27	友の会売店	10m ²
28	空調機械室	11m ²
29	消火栓ポンプ室	5m ²
30	厨子甕収蔵庫	75m ²
31	障害者用トイレ	7m ²
32	廊下(裏口用)	18m ²

図2

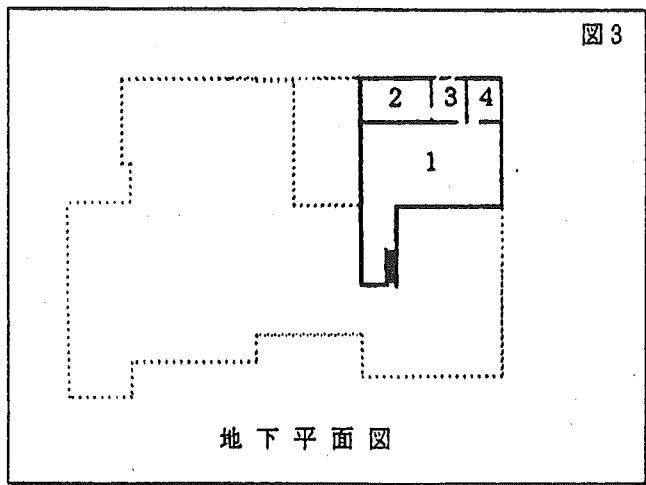


1階平面図

【地下】

番号 室名

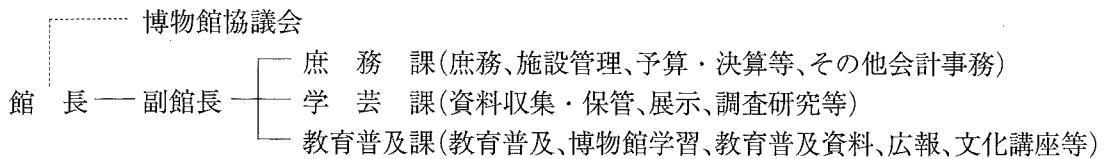
1	収蔵庫	290m ²
2	空調機械室	61m ²
3	荷解場	28m ²
4	受変電設備	30m ²



地下平面図

4 組織(平成16年4月1日現在)

(1) 組織



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	當眞嗣一	博物館業務の総理に関すること。
副館長兼庶務課長	友利克実	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

庶務課

庶務課長 (副館長兼務)	友利克実	庶務課の総括、予算・決算、財産管理(財産・鍵・公印の保管等)、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。
主査	當間正子	歳出事務、決算事務、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他の庶務に関すること。
主事	金城博之	給与、歳入、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関する事、図書類、消耗品受入、文書等の収受、切手等の管理、その他庶務に関する事。
主任	平安山明彦	施設設備の保守管理、全館薰蒸、車両の管理、防火管理補助、備品・その他庶務に関する事。

学芸課

主幹兼課長	津波古聰	学芸業務全般の総括、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖縄県博物館協会、美術工芸資料(絵画)に関する事、博物館新館建設事業に関する事(総括)。
指導主事	赤嶺敏	美術工芸資料(漆器・陶器)、資料収集事業、博物館資料修理、収蔵品台帳、写真資料貸出、博物館新館建設事業(美術工芸・閉館記念等)に関する事。
学芸員 (臨任)	大城航	歴史資料、資料収集事業、博物館『年報』の編集・発行、図書資料、博物館新館建設事業(歴史資料調査等)に関する事。
主任	仲座久宜	考古資料、パネル展等企画事業、博物館『年報』の編集・発行、新館移転資料整理、移動博物館、博物館新館建設事業(考古資料・開館記念等)に関する事。
指導主事	座霸泰	自然史資料(地質・化石)、化石資料整理、展示資料整備、県庁ロビー展、沖縄県博物館協会、館ホームページ、博物館新館建設事業(自然史・収蔵資料データベース等)に関する事。
指導主事 (充)	嵩原建二	自然史資料(鳥類・哺乳類・植物)、剥製等の調査・製作、展示資料整備、新館移転資料整理、博物館資料の管理システム、熏蒸、博物館新館建設事業(自然史資料調査等)に関する事。

指導主事 (充)	田 中 聰	自然史資料（動物等）、企画展、博物館総合調査、剥製等の調査・製作、博物館紀要、沖縄県博物館協会、博物館新館建設事業（自然史資料調査等）に関すること。
々	久 場 政 彦	民俗資料、特別展、新収蔵品展、展示資料整備、博物館資料の管理システム、新館移転資料整理、博物館新館建設事業（民俗資料・野外展示等）に関すること。
学芸員 (臨任)	勝 連 涼 子	美術工芸資料（染織・書跡）、写真資料等の整理、撮影等の受付、新館移転資料整理に関すること。

教育普及課

主幹兼課長	上 地 弘 伸	教育普及業務の総括、博物館友の会への指導に関すること。ボランティア活動事業（登録含む）、博物館新館建設事業（教育普及関係）に関すること。
指導主事 (充)	伊 波 一 男	移動博物館、博物館シアター、団体見学の対応（中学生）、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚器材の保全・管理、行事案内、博物館新館建設事業（教育普及関係）に関するここと。
指導主事 (充)	玉 城 善 哲	博物館体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学の対応（小学生）、博物館展示リーフレットの作成、子供からの手紙相談、博物館新館建設事業（教育普及関係）に関すること。
学芸員 (臨任)	松 川 聖 子	文化講座、広報活動（マスコミ記者会見等）、文化講座・博物館だよりの発行、博物館ホームページ、アンケート調査・回答、団体見学の対応（高校生）、博物館新館建設事業（教育普及関係）に関すること。

委託職員

教育普及補助員	喜久川 智 子 江 藤 奈穂子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	當 眞 哲 子 金 民 子 城 美美子 伊 敏 子 波 千恵子 小 橋 敏 子 橋 袋 弘 子 島 大 子	受付補助及び展示場監視に関すること。
緑化整備員	金 城 朝 正	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓 子	博物館友の会の庶務会計に関すること。
-------	---------	--------------------

(3) 人事異動

平成16年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】 主査 主任	外間廣子 平良盛明	県立図書館 主査 土木建築部 施設建築室 主任技師（昇任）
【転入】 主査 主任	當間正子 平安山明彦	(財) 沖縄県文化振興会公文書管理部 主査 土木建築部 下水道建設事務所 主任

5 沖縄県立博物館協議会

日 時：平成16年3月18日（木） 14:00 ~ 16:00

場 所：県立博物館会議室

会議事項

1. 平成15年度博物館事業報告

- (1) 平成15年度最終予算について
- (2) 学芸課事業について
- (3) 教育普及課事業について

2. 平成16年度博物館事業計画

- (1) 平成16年度当初予算について
- (2) 学芸課事業について
- (3) 教育普及課事業について

沖縄県立博物館協議会委員会名簿(平成14年12月15日～平成16年12月14日)

	氏名	所属	職名
学識経験者	翁長自修	元琉球大学教授 (美術工芸)	名誉教授
	新城和治	元琉球大学教授 (自然史)	元教授
	金城正篤	沖縄大学教授 (歴史)	教授
	嵩元政秀	沖縄考古学会 (考古学)	元会長
	津波高志	琉球大学教授 (民俗)	教授
学校関係者	垣花正男	沖縄県小学校長会	副会長
	神谷乗仁	沖縄県中学校長会	副会長
社会教育関係者	仲地朝明	沖縄県社会教育委員会会議	会長
	喜納兼功	沖縄県P.T.A連合会	会長
	長間高子	沖縄県子ども会育成連絡協議会	事務局長

6 予 算

平成15年度博物館費(決算)

(単位:円)

予 算 科 目	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報酬	83,700	0	83,700
賃金	0	1,509,080	1,509,080
報償費	0	214,000	214,000
旅費	691,698	1,799,452	2,491,150
需用費	18,696,988	8,654,629	27,351,617
役務費	1,580,000	2,127,000	3,707,000
委託料	19,296,000	27,868,910	47,164,910
使用料及び賃借料	94,374	680,050	774,424
備品購入費	1,602,300	3,008,040	4,610,340
負担金補助及び交付金	75,000	0	75,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	42,138,960	45,861,161	88,000,121

平成15年度歳入状況

(単位:円)

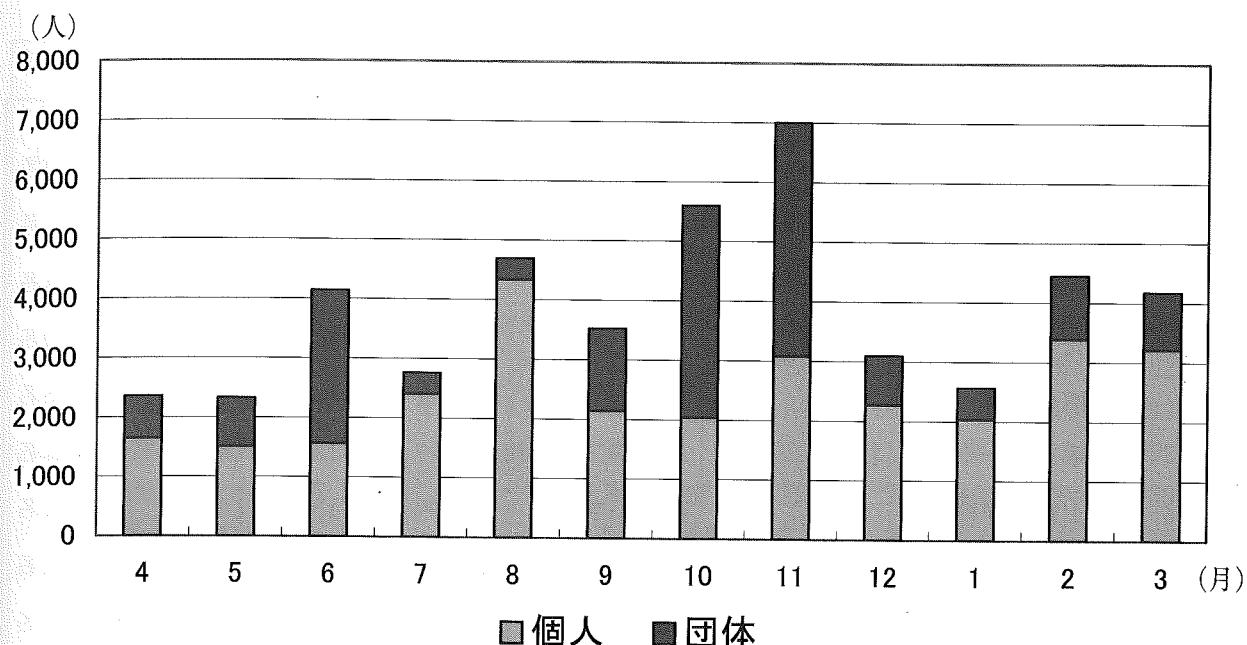
	友の会等	特 別 展 等	合 計
博物館使用料	0	5,815,510	5,815,510
土地使用料	83,446	0	83,446
建物使用料	47,835	0	47,835
雜 入	84,694	0	84,694
合 計	215,975	5,815,510	6,031,485

II 入館者数(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

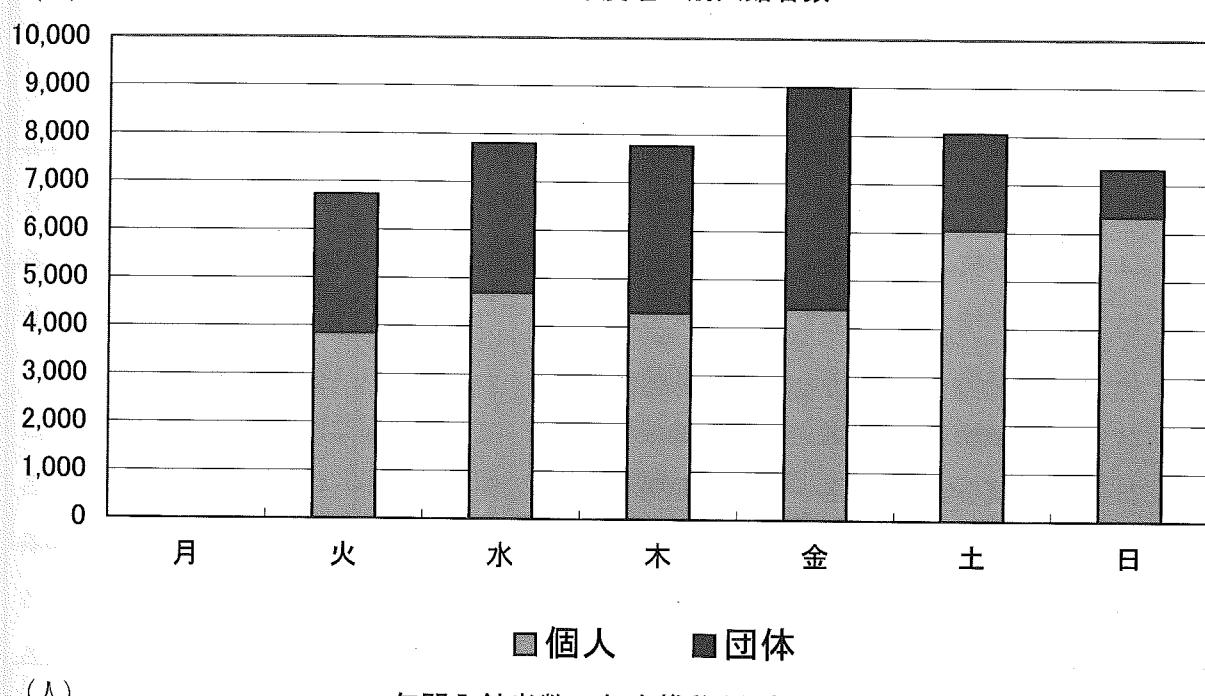
団体入館者数(有料)

年 月	県 内						県 外						國 外			合 計			
	大人		高大生		小中生		大人		高大生		小中生		大人		高大生		小中生		
	團 體 數	人 數																	
平成15年 4月	2	48		1		3	2	52			1	32	2	59	3	91			
5月	45	1	36	2	53	3	134				1	176	1	176					5 143
6月	3	144		2	178	5	322	3	82	14	1,232			17	1,314				310
7月	3	112		1	70	4	182		1	1	19			1	20				3 202
8月	1	39		1	8	222	9	262	1	16		1		3	1	20			2 282
9月	2	36			10	2	46	4	120	5	187	1	50	10	357				6 403
10月	4	121	2	56		11	6	188	1	39	6	918	4	250	11	1,207	1	26	1 26 6 1,421
11月	5	128	1	64			6	192	7	276	11	1,827		3	18	2,106			12 2,298
12月	3	111		1	20	4	131	1	42	4	104			5	146				4 277
平成16年 1月												1	90	4	153			2 152 2 152	3 305
2月	1	22					1	22	6	271	3	312		9	583				605
3月	2	136			3	115	5	251	6	169	7	500	2	13	671	1	31	1 8 1 40 9 962	
合 計	26	942	4	158	17	682	47	1,782	32	1,079	52	5,132	9	633	93	6,844	2	57	1 2 160 4 218 56 8,844

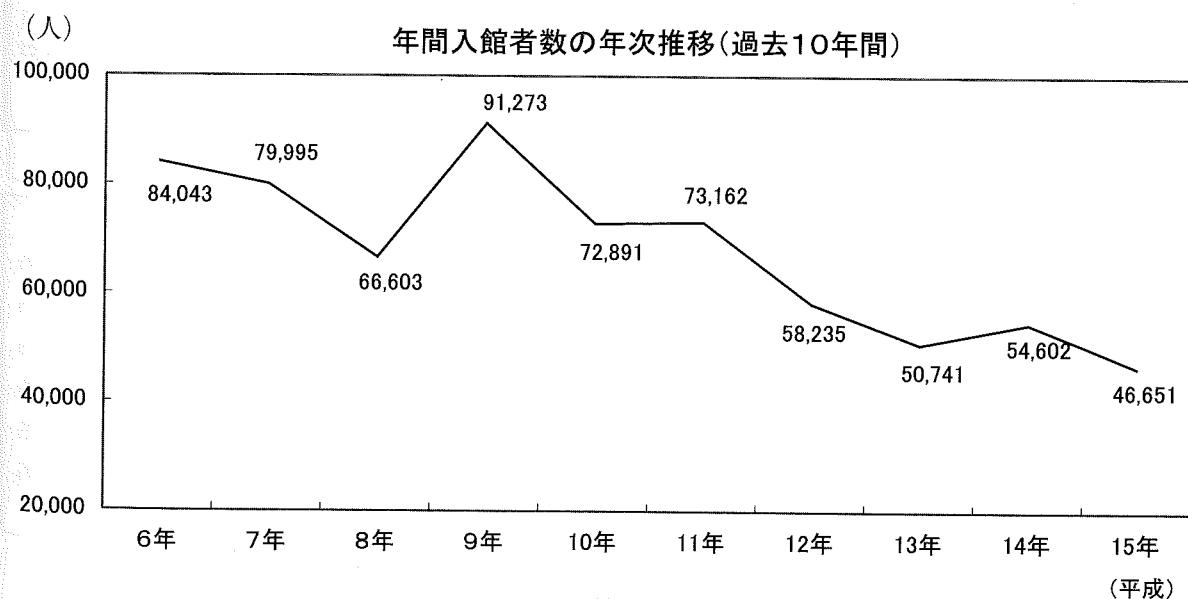
平成15年度月別入館者数



平成15年度曜日別入館者数



■個人 ■団体



2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 71校 5,208名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	24	城西小学校	144名	10	西原東小学校	95名	11	有銘小学校	10名
	25	松島小学校	146名		塩屋小学校	12名		牧港小学校	111名
5	2	大謝名小学校	116名	10	真壁小学校	37名	7	さつき小学校	124名
	20	北小学校	24名		西原小学校	117名		玉城小学校	50名
20	南小学校	79名	16	城東小学校	125名	12	下地小学校	48名	
	27	平良第一小学校	117名	北谷第二小学校	94名	屋我地小学校	22名		
6	5	上野小学校	36名	21	田場小学校	146名	13	屋良小学校	61名
	12	泊小学校	142名		渡慶次小学校	85名		西崎小学校	131名
20	白保小学校	23名	23	大山小学校	196名	20	百名小学校	45名	
	3	沖縄ろう学校	2名	奥間小学校	21名	金城小学校	172名		
4	座間味小学校	14名	24	嘉芸小学校	29名	21	楚洲小学校	1名	
	8	垣花小学校	54名	金武小学校	73名	浦添小学校	91名		
10	琉大附属小学校	39名	24	瀬喜田小学校	18名	28	佐敷小学校	74名	
	15	伊平屋小学校	22名	喜如嘉小学校	11名	沖縄盲学校	5名		
9	4	仲西小学校	101名	24	和光鶴川小学校	71名	11	松田小学校	13名
	18	北谷小学校	82名		大里南小学校	121名		古蔵小学校	147名
18	城西小学校	125名	28	川崎小学校	78名	17	ボイスガウット(韓国)	77名	
	24	城西小学校	123名	島袋小学校	59名	ボイスガウット(韓国)	75名		
25	琉大附属小学校	38名	30	越來小学校	58名	2	泡瀬養護学校	13名	
	26	前田小学校	117名	与那原小学校	114名	仲井真小学校	100名		
30	城北小学校	127名	6	津嘉山小学校	122名	10	開南小学校	84名	
	2	北玉小学校	77名	粟国小学校	7名	大名小学校	47名		
3	伊良波小学校	92名	6	南大東小学校	23名	19	壺屋小学校	44名	
	9	与那原小学校	96名	漠那小学校	15名				

(中学校) 20校 1,209名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	15	桧沢中学校	26名	9	池房中学校	50名	12	平安座中学校	42名
	16	南郷中学校	33名		嘉島中学校	84名		金武中学校	13名
5	2	恩納中学校	53名	10	浦西中学校	7名	1	安岡中学校	48名
	28	城北中学校	140名		沖縄カトリック中学校	47名		竜北中学校	90名
29	鏡中学校	176名	11	1	潮平中学校	140名	2	三和中学校	20名
	9	國頭中学校	76名	首里中学校	67名	Lester middle school		45名	
7	17	首里中学校	44名	12	沖縄盲学校	8名			

(高等学校) 52校 6,695名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	2	山陽女子高等学校 32名	9	19	若松第一高等学校 85名	11	21	首里高等学校 40名
6	4	那覇工業高等学校 120名	10	7	清心女子高等学校 48名	12	5	那覇国際高等学校 395名
6	6	首里高等学校 480名	8		南風原高等学校 403名	9		糸満高等学校 40名
8		菰野高校硬式野球部 29名	21		宮岡高等学校 114名	13		松商学園高等学校 40名
10		金沢伏見高等学校 41名	25		大妻嵐山高等学校 223名	13		日本福祉大学附属高等学校 26名
11		輪島高等学校 37名	25		川口総合高等学校 294名	16		足尾高等学校 21名
17		六甲高等学校 24名	25		明治大学付属中野高等学校 222名	16		南部農林高等学校 42名
24		東海大学付属翔洋高等学校 97名	11	2	明治大学付属中野高等学校 178名	2	14	三郷工業技術高等学校 217名
24		九州産業大学付属九州産業高等学校 137名	6		久喜高等学校 317名	21		筑紫台高等学校 72名
25		九州産業大学付属九州産業高等学校 142名	7		新座北高等学校 199名	3	2	東海学園高等学校 53名
26		鎌倉女子大学高等部 172名	11		東京西部学館高等部 55名	3		保善高等学校 105名
26		九州産業大学付属九州産業高等学校 152名	11		小平南高等学校 242名	4		保善高等学校 115名
27		東海大学付属翔洋高等学校 64名	12		和田山高等学校 152名	5		保善高等学校 114名
27		九州産業大学付属九州産業高等学校 193名	12		橘女子高等学校 20名	16		同志社国際高等学校 41名
28		明法高等学校 142名	12		岸根高等学校 235名	24		東野高等学校 34名
9	7	筑波大学付属盲学校 26名	12		日本大学明誠高等学校 306名	26		東野高等学校 37名
9	9	伊具高等学校 42名	12		首里高等学校 40名			
12		辺土名高等学校 202名	18		石和高等学校 38名			

(大学・専門学校) 13校 413名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	22	琉球大学 36名	9	13	沖縄県立芸術大学 22名	11	12	ニホンオートモービルカレッジ 85名
7	23	九州造形短期大学 20名	10	3	群馬自動車整備専門学校 20名	12	20	京都造形芸術大学 21名
9	2	京都精華大学 20名	22		琉球大学 29名	2	28	姫路獨協大学 23名
	5	追手門学院大学 21名	28		沖縄県立芸術大学 26名			
	7	玉川大学 26名	11	12	那覇情報システム専門学校 64名			

(その他) 7団体 299名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	23	若狭幼稚園 58名	9	4	城南幼稚園 45名	2	5	クララ幼稚園 110名
6	8	泡瀬幼稚園 24名	10	18	クララ幼稚園 35名			
7	17	慈愛幼稚園 10名	12	18	報恩幼稚園 17名			

III 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補性をもって存在するものであるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む共同研究と、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究がある。

共同研究としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各分野の基礎資料の掘り起こと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（平成5年度・6年度）を皮切りに、波照間島（平成8年度・9年度）、西表島（平成10年度～12年度）、小浜島（平成13年度～15年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。平成16年度からは与那国島について調査を実施し、平成20年度は報告書を刊行する予定である。なお、通常総合調査は3年間で実施しているが、平成19年度は新館移転のため、報告書の刊行を1年延長した。また20年度以降は久米島（平成8年に特別展を開催）を除き、これまで実施した調査地の展示会を検討している。

各学芸員については、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもと進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様なあり方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、平成15年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第30号をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、平成15年度に当館及び学芸員が実施した調査・研究活動の状況を報告する。

2. 博物館総合調査

小浜島総合調査（担当：田中聰）

予算額：1,747,000円

①博物館総合調査事業の趣旨

沖縄県は多くの島々から成り立ち、島ごとに独自の自然やそれを背景とした暮らしがある。

これまで県内の離島については、生物相、遺跡の分布、民俗・集落や伝統行事等については報告が散見される。しかし、島々の自然・歴史・文化をより深く理解するためには、基礎的なデータは十分とはいえない。

近年、県内においても森林伐採・道路建設・干潟の埋め立てなどの乱開発のため、自然環境は大きく変貌してきている。さらに、住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も変わりつつある。このままでは、島々の自然・歴史・文化などに関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内離島の自然・歴史・文化について調査研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の実態を多くの県民に正しく伝えることを目的としている。正しい知識を共有することによって、搅乱に対して脆弱な島々の自然環境の保全や貴重な文化的資料の保存に対する理解が深められ、よりよい形での各地域の発展につながるものと考えられる。

総合調査の期間は対象となる島の大きさや調査内容などに応じて2～3年であるが、小浜島総合調査は平成13年度から平成15年度までの3年計画で実施した。

②小浜島総合調査の選定理由

小浜島は八重山郡竹富町に属しており、石垣島と西表島の間に位置している。面積は約7.84km²で、もっとも高い大岳の標高は99mである。

八重山郡の島々には沖縄・宮古諸島とは異なる自然や文化がみられることが知られているが、島ごとの実態は十分明らかにされていない。したがって、今回の小浜島総合調査は同島内各地域に現存する貴重な資料の調査・収集等を目的に選定された。

③総合調査組織

本調査組織は平成13年度から平成15年度に沖縄県立博物館に在籍した館長をはじめ、各分野の学芸員により構成されている。

④調査方法

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の5分野で実施した。各分野の調査対象や調査地域等は異なっているため、現地調査は分野別に具体的な調査対象・方法を各担当者で検討した上で個別に実施した。

⑤総合調査の成果

平成15年3月末に、『小浜島総合調査報告書』を刊行した。今年度から実施している与那国島総合調査終了後、八重山諸島4島を対象とした特別展を開催する予定である。

3. 調査研究

嵩原 健二（充指導主事）

○名 称：名護市動植物総合調査委員

期 間：平成15年4月1日～平成16年3月31日

依頼機関：名護市教育委員会

○名 称：ノグチゲラ調査検討専門部会委員

期 間：平成15年4月1日～平成16年3月31日

依頼機関：（財）沖縄建設弘済会（北部ダム事務所業務委託）

○名 称：マングース対策検討委員

期 日：平成15年10月11日～平成16年3月31日

依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課

○名 称：環境省委託移入鳥獣対策事業に関わる現地調査（黒島・石垣島）

期 日：平成16年1月26日～28日

依頼機関：日本野鳥の会八重山支部

○名 称：環境省委託国設鳥獣保護区設定のための動物調査（南大東島・北大東島）

期 日：平成15年4月1日～平成16年3月31日

依頼機関：環境省奄美・沖縄地区国立公園管理事務所

○名 称：新館展示関連資料収集調査（神奈川県立地球・生命の星博物館、千葉県我孫子市鳥の博物館、山階鳥類研究所）

期 日：平成16年1月15日～17日

依頼機関：トータルメディア研究所

○名 称：新館展示関連資料収集調査（宮古島・西表島）

期 日：平成16年1月24日～28日

依頼機関：トータルメディア研究所

○名 称：環境省委託クジヤク対策事業に関わる現地調査（黒島・石垣島）

期 日：平成16年1月26日～28日

依頼機関：日本野鳥の会八重山支部

○名 称：新館展示関連資料収集調査（奄美大島）

期 日：平成16年1月26日～28日

依頼機関：トータルメディア研究所

○名 称：環境省委託国設鳥獣保護区設定のための動物調査（南大東島・北大東島）

期 間：平成15年4月1日～平成16年3月31日

依頼機関：環境省奄美・沖縄地区国立公園管理事務所

田中 聰（充指導主事）

○名 称：平成15年度国指定天然記念物（オカヤドカリ）緊急実態調査

期 間：平成15年5月22日～平成16年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会

○名 称：小浜島総合調査（竹富町・小浜島）

期 間：平成15年7月23日～7月26日

依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示資料調査（沖縄島国頭村）

期 間：平成16年1月21日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示資料調査（宮古島・西表島）

期 間：平成16年1月24日～1月26日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示資料調査（与那国島）

期 間：平成16年3月17日～3月19日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：移入鳥獣対策調査（黒島・石垣島）

期 間：平成16年1月27日～1月28日

依頼機関：日本野鳥の会八重山支部

○名 称：新館展示資料調査（北九州市立自然・歴史博物館・宮崎県総合博物館）

期 間：平成16年1月14日～1月16日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

久場政彦（充指導主事）

○名 称：新館展示資料調査（石垣市八重山博物館、伊原間サビチ鍾乳洞）

期 間：平成15年9月18日～9月20日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示資料調査（宜野座村立博物館、大宜味村塩屋）

期 間：平成15年10月17日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示資料調査（大阪人権博物館、京都国立博物館、同文化財修理所、兵庫歴史博物館、日本玩具博物館）

期 間：平成16年2月24日～2月26日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

座覇 泰（指導主事）

○名 称：洞穴調査（那覇市山下町）
期 間：平成15年5月26日
依頼機関：那覇市教育委員会文化財課

○名 称：八重山諸島の地質調査（＜石垣島＞観音崎、平野、星野など、＜西表島＞野原、祖納、干立など）
期 間：平成15年8月14日～16日

○名 称：今帰仁城跡近辺の化石調査（今帰仁村字今泊）
期 間：平成15年12月18日

○名 称：新館展示資料調査（茨城県自然博物館、群馬県立自然史博物館、国立科学博物館）
期 間：平成16年1月20日～22日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

仲座久宜（学芸員）

○名 称：小浜島総合調査（竹富町小浜島）
期 間：平成15年9月17日～9月19日
依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示資料調査（大阪人権博物館、京都国立博物館、同文化財修理所、兵庫歴史博物館、日本玩具博物館）
期 間：平成16年2月24日～2月26日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：佐敷グスク発掘調査指導（佐敷町）
期 間：平成16年3月12日
依頼期間：佐敷町教育委員会

4. 講演等

嵩原建二（充指導主事）

○名 称：環境省漫湖水鳥・湿地センター1周年記念野鳥講演会
期 日：平成15年5月13日
依頼機関：環境省奄美・沖縄地区国立公園管理事務所
場 所：漫湖水鳥・湿地センター

○名 称：総合学習の展開に伴う職員研修会講師
期 日：平成15年7月30日
依頼機関：西原町立坂田小学校
場 所：西原町一円

○名 称：沖縄県児童生徒科学作品展審査
期 日：平成15年10月10日
依頼機関：沖縄県理科教育研究会

場 所：首里公民館

○移動博物館に伴う自然観察会講師

期 日：平成15年11月22日

依頼機関：伊平屋村教育委員会

場 所：伊平屋島

田中 聰（充指導主事）

○名 称：高校生による生物科学展審査

期 日：平成15年10月28日

依頼機関：沖縄生物教育研究会

○名 称：第343回 博物館文化講座

「亜熱帯林に生きる動物たち－25年のフィールドワークをとおして－」

期 日：平成16年2月21日

依頼機関：沖縄県立博物館

久場政彦（充指導主事）

○名 称：「あじまあ 沖縄の伝統とくらし 一沖縄県立博物館収蔵資料展一」展示委員会

期 間：平成15年7月11日～7月13日

場 所：国立民族学博物館（大阪府）

依頼機関：国立民族学博物館

○名 称：「あじまあ 沖縄の伝統とくらし 一沖縄県立博物館収蔵資料展一」展示指導及び開会式・

解説会（講師）参加

期 間：平成15年9月29日～10月3日

場 所：国立民族学博物館（大阪府）

依頼機関：国立民族学博物館

○名 称：第344回 博物館文化講座

「琉球玩具（張り子）の世界－尾崎清次と『琉球玩具図譜』を中心に－」

期 間：平成16年3月13日

依頼機関：沖縄県立博物館

座覇 泰（指導主事）

○沖縄県青少年科学作品展審査

期 日：平成16年1月23日

場 所：沖縄電力本社講堂

依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力

仲座久宜（学芸員）

○名 称：「あじまあ 沖縄の伝統とくらし 一沖縄県立博物館収蔵資料展一」展示検討委員会

期 間：平成15年7月11日～7月13日

場 所：国立民族学博物館（大阪府）

依頼機関：国立民族学博物館

○名 称：「あじまあ 沖縄の伝統とくらし 一沖縄県立博物館収蔵資料展一」展示資料開梱立会及び展示指導

期 間：平成15年9月23日～9月27日
場 所：国立民族学博物館（大阪府）
依頼機関：国立民族学博物館

5. 著作論文等

嵩原 建二（充指導主事）

- 「読谷村の鳥類（補遺）」読谷村歴史民俗資料館紀要第28号 読谷村立歴史民俗資料館2004年3月
- 「伊平屋島及び伊是名島における鳥類の記録」（共著）沖縄県立博物館紀要第30号 沖縄県立博物館2004年3月
- 「小浜島における鳥類の記録について」小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月
- 「小浜島で確認されたヤエヤマオオコウモリの餌植物」小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月

田中 聰（充指導主事）

- 「小浜島における両生爬虫類の現状について」小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月
- 「小浜島におけるインドクジャクの現状について」小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月
- 「沖縄県小浜島の路上におけるゴイサギの待ち伏せ型採食行動」（共著）
小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月
- 「小浜島で確認された蜘蛛形類、唇脚類および倍脚類について」（共著）
小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月
- 「西表島山地林におけるトカゲ類の活動について」（共著）沖縄県立博物館紀要 沖縄県立博物館2004年3月

久場政彦（充指導主事）

- 「琉球張り子の世界—尾崎清次と『琉球玩具図譜』を中心に」（共著）沖縄県立博物館紀要 沖縄県立博物館2004年3月

仲座久宜（学芸員）

- 「小浜島の遺跡」小浜島総合調査報告書 沖縄県立博物館2004年3月

6. 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他、これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法 第4条4）こととしており、学問の専門性が要求されている。そのため個々の学芸員がこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習社会における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員は適宜研修を受けている。

平成15年度は、文部科学省が主催する「博物館職員講習会」に参加した。この研修は2年計画で、博物館職員としての必要な知識を修得するための研修である。

- 平成15年度博物館職員講習（研修者：田中 聰）

「博物館職員講習」は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員資格の取得を目的として実施されている。期間は2年間にまたがるが、2年目にあたる平成15年度は6月2日～6月25日に国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（東京上野）を主会場に、生涯学習概論・視聴覚メディア論・教育学概論・自然科学史・生物学の5科目についての講義・現地研修を受講した。生涯学習社会が進む中、社会教育機関としての博物館の役割の大きさを再認識した。2年にわたる講習で、全国から参加した博物館職員とつながりができたことも大きな収穫であった。

研修内容は以下のとおりである。

- 6月2日（月）開講式・「特別講義：博物館におけるコミュニケーションをどう創るか」
- 6月3日（火）教育学概論「生涯発達と教育」・「教育の本質」
- 6月4日（水）教育学概論「教育評価の目標と方法」・「教育方法・技術」
- 6月5日（木）教育学概論「教育制度」・教育学概論テスト
- 6月6日（金）生涯学習概論「生涯学習社会と社会教育」・「家庭教育、学校教育及び社会教育の特質と連携」
- 6月9日（月）生涯学習概論「生涯学習振興策の概要」・「社会教育施設の概要」・「学習情報提供と学習相談」
- 6月10日（火）生涯学習概論「社会教育の内容・方法・形態と指導者」・生涯学習概論テスト
- 6月11日（水）視聴覚メディア論「視聴覚教育の意義」・「A V機器の活用」
- 6月12日（木）視聴覚メディア論：視聴覚メディアを活用した学習支援の方法（現地研修：国立歴史民俗博物館）
- 6月13日（金）視聴覚メディア論：視聴覚メディアを活用した展示（現地研修：国立歴史民俗博物館）
- 6月16日（月）視聴覚メディア論「ホームページの活用」・視聴覚教育メディア論テスト
- 6月17日（火）生物学「生態学概論」・「生態学実験」
- 6月18日（水）生物学「植物分類学」・「動物分類学」
- 6月19日（木）生物学「遺伝学」・生物学テスト
- 6月20日（金）自然科学史「産業技術史」（現地研修：科学技術館）
- 6月23日（月）自然科学史「前近代の自然科学史」・「近代の科学史と社会」
- 6月24日（火）自然科学史「自然科学史の研究方法」・自然科学史テスト
- 6月25日（水）シンポジウム「コミュニケーションの場としての博物館の可能性」・閉講式

IV 展示活動

1. 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。本館の展示活動は主として学芸課がその任にあたり、常設展を基本に特別展を年に1回から2回、企画展を1回から2回実施している。また教育普及課が主体となって、移動博物館を離島地域を対象に実施している。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の企画展示室が狭隘であるため、展示規模に合わせて第1室（考古・歴史展示室）や第3室（美術工芸展示室）を利用している。そのため、特別展開催期間中は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できないことが、当館の大きな課題となっている。

平成15年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別企画展として「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」、企画展として「平成14年度新収蔵品展」、「旅する種子～運ばれる巧妙なしきけ～」、「戦前戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」を開催した。また、11月3日（文化の日）にはパネル展「首里・那覇のむかし風景」を開催し、講堂では「復帰前に収録された古典芸能」のフィルムを上映した。なお、文化の日のみ入館料を免除した。さらに、5月18日（国際博物館の日）の前後に、ミニパネル展「博物館を知ろう」と題したパネル展、5月26日～30日には県庁ロビーにて県立博物館の広報展を開催した。

共同での展示会では、国立民族学博物館（以下、民博）における「あじまあ 沖縄の伝統とくらし～沖縄県立博物館収蔵資料展～」（平成15年10月2日～平成16年6月1日）を開催。費用を民博が負担し、資料の構成は当博物館が担当した。展示構成は実行委員会の形をとって双方で協議しながら進めた。

以下、平成15年度の展示活動について紹介する。

2. 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のもとにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として、我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ、日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って、海洋国家として興隆したという独特の経緯を有している。

本館は、沖縄県の特色ある歴史と文化に関する資料を収集して、整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。展示室は、1階の歴史展示室と自然史展示室、2階の企画展示室と美術工芸展示室、さらに中3階の民俗展示室がある。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されている。

まず館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿前の大龍柱の頭、「徳高」や「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。それから動線は歴史展示室へとつながる。歴史展示室は琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。例えば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿などを紹介する。また12世紀から13世紀になると、按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まるが、各グスクから出土した遺物が展示されている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

自然史展示室は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれる。アンモナイトやハロビア、あるいはリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。入り口から入って、右まわりに海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものをテーマにしたジオラマが続いている。また、沖縄のハブについても展示紹介してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については、中央部に特設コーナーを設けて展示してある。

自然史展示室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されていて、写真を見ながら企画展示室に導かれる。このスロープでは、企画展や特別展に関連したパネル展を開催する場合もある。

2階には企画展示室、美術工芸展示室、民俗展示室がある。企画展示室は、特別展や企画展の開催がない期間は、「大嶺薰コレクション」が展示されているが、その一角を利用して各学芸員の専門性をいかしたミニコーナを設けてある。

美術工芸展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交流を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

民俗展示室では、琉球列島の民俗資料を、農業、漁業、衣食住、芸能などのテーマで整理・分類して展示してある。庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。とりわけ、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などの展示は、この展示室の特徴の一つになっている。

当館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前面の龍潭や首里城の景観と調和して古都のたたずまいをしのばせる歴史的景観を呈している。また野外展示にもなっている前庭には、旧円覚寺楼鐘（重要文化財）や沖永良部島から移築された高倉をはじめ、石灯籠や石敢當とともに粟国島のトゥージ（石製のタンク）、石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭、岩石標本などが展示されている。

3. 特別企画展

○特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」（担当：赤嶺敏）

会期：平成15年10月28日（火）～12月7日（日）

会場：沖縄県立博物館（企画展示室・美術工芸展示室）

関連催事：特別講演会（県立博物館講堂）、ギャラリートーク（講堂及び企画展示室）

予算額：6,561,000円

【開催趣旨】

田中俊雄（1914～1953）は、山形県米沢市生まれの染織研究家で、沖縄の織物を染織史のあらゆる角度から研究した最初の人物である。昭和14年、15年と民芸調査団の一人として沖縄を訪れ、精力的に染織調査を行う。この結果は、論文・遺稿を寄せた『沖縄織物の研究』にまとめられ、これは沖縄織物を研究する者のバイブル的存在となっている。その後、田中の急逝により、彼の研究はここで途切れた。”傷痕の沖縄に捧ぐ”これは、田中の著書の序文として書かれた言葉であり、田中の研究のまとめはその言葉に尽きる。彼の研究の足跡を追い、収集した染織品を展示することで、田中が、沖縄の染織をどのようにみつめ、その未来をどのように考察したかを、没後50年を経た今、その業績を再考した。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館
共 催：財団法人日本民藝館
後 援：沖縄民藝協会 沖縄染織研究会 NHK沖縄放送局 琉球放送株式会社
沖縄テレビ放送株式会社 QAB琉球朝日放送 琉球新報社 沖縄タイムス社
協 力：田中駒蔵

期間中約9,200人の入館者があり、盛況の内に終了した。

展示品は沖縄の昭和10年代に、日本民藝協会により収集された沖縄織物裂地422点の資料と米沢の田中家から借用した資料を展示した。本展は織物研究家の研究成果を紹介する展示会で、特に染織関係の専門家の関心を引くとともに、県民に対しても田中俊雄という人物を認知してもらう契機となつたと考えられる。

本展示会において田中家より借用された資料のほとんど全ては沖縄県立博物館に寄贈されることになった（平成16年3月）。

【展示内容】

(1) プロローグ展示 （田中俊雄の見た沖縄）

昭和10年代の調査に同行した坂本万七の写真を展示し、調査団の構成員、調査の様子や当時の服装、工芸全般を紹介した。

(2) 田中俊雄という人物

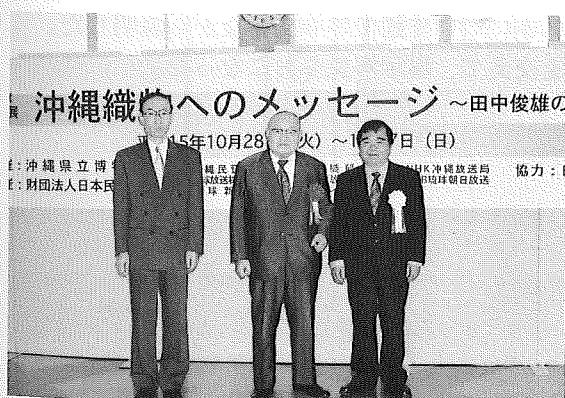
田中俊雄の生い立ちについて、誕生の地（米沢）、彼を支えた師・先輩・友人達等にふれながら、民藝協会に参加し沖縄の染織について深く立ち入っていく契機について展示した。また、染織以外の、生活の糧を得るための活動から、子供の誕生、田中俊雄の亡くなるまでの生涯を紹介した。

(3) 民藝協会の沖縄調査

機関誌『民藝』の記事から、田中俊雄と関わりの深い部分を中心に抜粋し、一次調査と二次調査の足取り、内容を、写真パネルやキャプションで紹介した。

(4) 田中俊雄の織物研究

沖縄繊維と染色、織り方の研究、絣の研究、久米島紬の分析、生活文化としての織物研究を草稿、調査メモ、抜き書きを中心に展示した。二重まねきの機りを写した写真や絣カードなどに染織研究者の関心が集まっていた。



(5) 沖縄織物の裂地の研究（日本民藝館の田中コレクション）美術工芸室

日本民藝館所蔵の田中コレクションから代表的な裂を140点展示した。沖縄織物の研究で田中俊雄が分類したものに従い、縞、絣、紋織りの順に展示した。機の使い方として、田中の研究図面から地機とその試作品を展示し、高機に代わる以前の織の再現し、3機展示した。また、第二次民藝調査のおりに撮影された「琉球の風物」「琉球の民芸」の映像を放映した。

【関連事業】

(1) 特別文化講演

演題：「田中俊雄—沖縄織物とその研究—」

日時：平成15年11月1日（土）

講師：吉岡幸雄（染織研究家）

要旨：○田中俊雄の研究の中から、染色に関する分野の考察。沖縄の植物染料について。

○田中俊雄の研究論文に接し『沖縄織物の研究』出版に至るまで

○染料と水質（本土と沖縄の違いについて）

(2) 文化講座

演題：「地機の話—かたち・しくみ・使い方—」

日時：平成15年11月22日（土）

講師：幸喜 新（沖縄市商工労政課嘱託）

要旨：○地機の歴史的な背景から、使われなくなった時期、また、その機を復活させることの意義について、地機のかたちの復元とそのしくみについて解説した。また、地機の使い方として、実際に織り始めて分かってきたことや、分からぬこと、これから解明していく必要のあることについて実演しながら解説した。

(3) ギャラリートーク（2回開催）

1回目日時：11月15日（土）

講師：小野まさ子〔（財）文化振興会公文書管理部資料編集室 主任専門員〕

要旨：○ギャラリートークという展示解説形式で実施した。参加者は講堂に集合し、20分程度の概説講義おこない、講堂出入口から展示室に移動した。

○田中俊雄の出身地、山形県（米沢）と沖縄の関わりのある人物や織物について。

○日本民藝館の琉球調査の中から、沖縄図書館での様子や、方言論争などについて。

○田中俊雄の資料の中で、染織文化に関する歴史的資料について解説した。

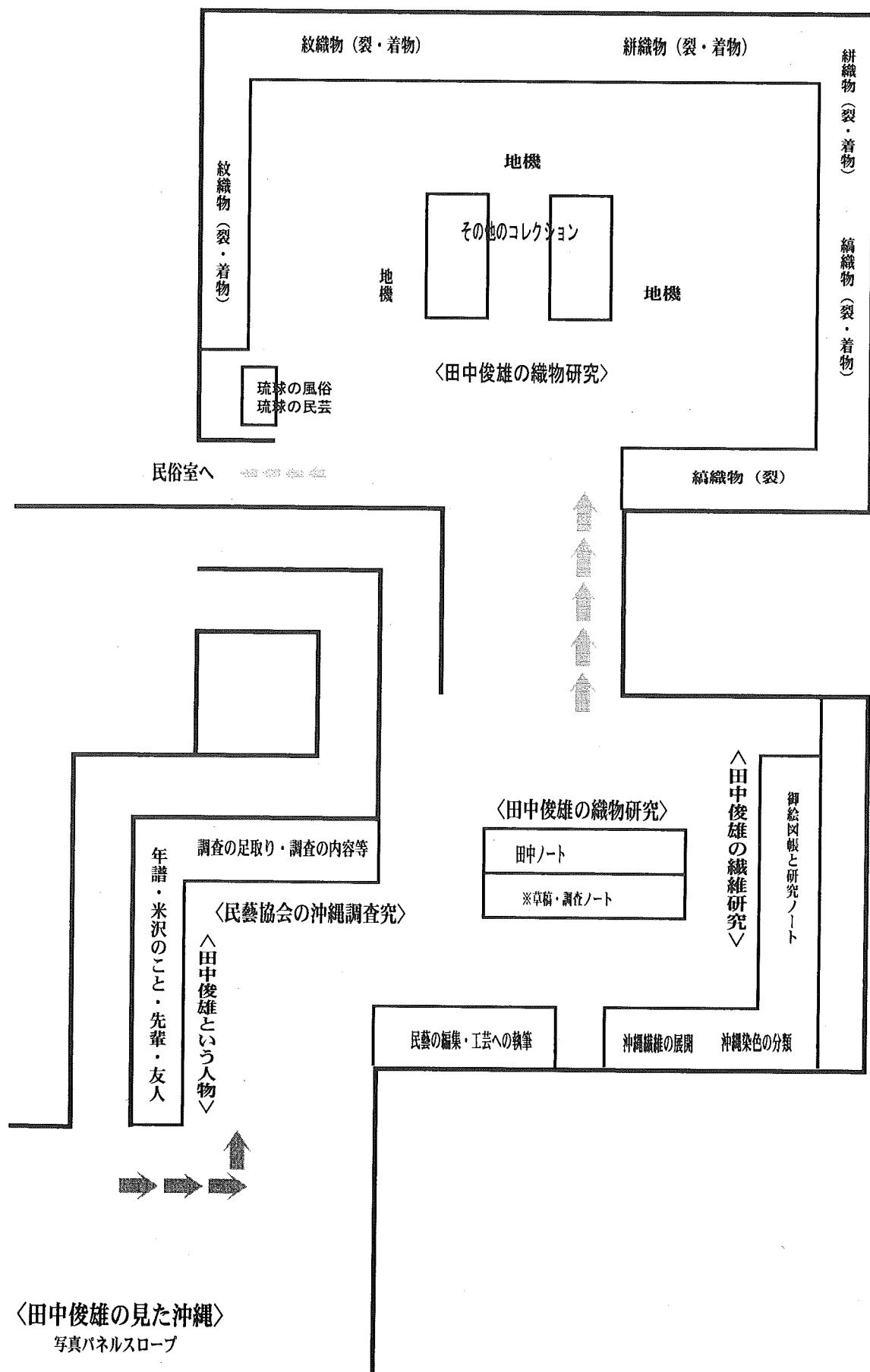
2回目日時：12月6日（土）

講師：與那嶺一子（沖縄県教育庁文化施設建設室）

要旨：○ギャラリートークという展示解説形式で実施された。参加者は講堂に集合し、20分程度の概説講義おこない、講堂出入口から展示室に移動した。

○概説では、田中俊雄以前の沖縄織物研究、田中俊雄の沖縄織物に関するまでの活動と日本民藝館の沖縄調査、田中俊雄の織物研究の基本について画像等も交えながら説明した。

○展示室では、資料にまつわるエピソード等を交えて、展示解説をおこなった。



4. 企画展

○企画展「新収蔵品展－平成14年度収蔵資料」

(担当：久場、田中)

会期：平成15年6月10日（火）～7月6日（日）

会場：企画展示室

予算額：366,400円

【開催趣旨】

企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管された諸資料を一堂に集め、広く一般公開するとともに、今後の展示や研究等に活用することを目的として実施するものである。

【事業内容】

平成14年度に寄贈・収集・購入された諸資料を、自然・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野に分類して、博物館2階の企画展示室で展示・公開した。

初日には、開会式において寄贈者の代表者に感謝状を贈呈し、テープカットにも参加していただいた。その他の寄贈者に対しては感謝状を郵送した。

【展示内容】

平成14年度は、寄贈・収集・購入により565点の資料が収蔵された。分野別にみると、自然史分野では新種記載に使われたワラジムシ2種の副模式標本や、大東島で採取されたアホウドリの化石資料が寄贈された。歴史分野では1947年に看護学校の敷地に設置されていたナイチンゲール塔をはじめ、県内の看護師養成の歴史を語る数々の資料が寄贈された。美術工芸分野では琉球漆器の中では数少ない流れ模様が施された「黒漆器龍丸水文箔絵櫃」が寄贈された。民俗分野では推綿の技法を用いて松竹梅や波千鳥等の装飾が施された琉球竽や銅版の飾金具を贅沢に用いた古タンス等が寄贈された。

収蔵資料すべてを展示することはスペースの関係で不可能であった。そのため、各分野担当の学芸員が資料を選択し、次頁の展示略図のとおり50点余りを展示した。

なお、平成14年度に収蔵された全資料目録および寄贈者全員の氏名は、平成15年度に刊行した小冊子「新収蔵品展－平成14年度収蔵資料」に掲載した。

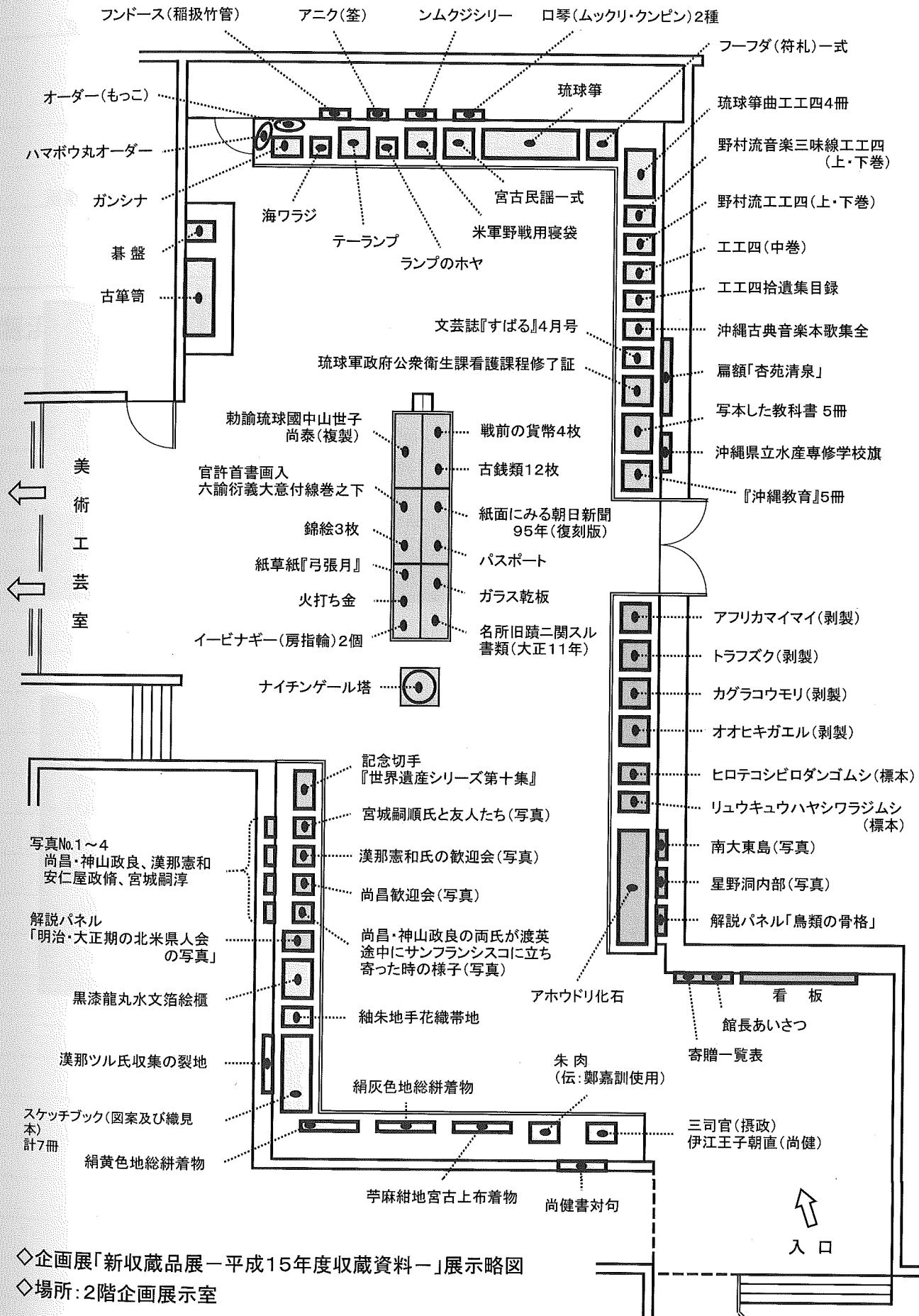


開会式の様子



展示解説の様子

新収蔵品展平面図



◇企画展「新収蔵品展－平成15年度収蔵資料－」展示略図
◇場所:2階企画展示室

○企画展「旅する種子—運ばれるための巧妙なしきかー」

(担当:嵩原)

開催期間: 平成15年7月15日(火) ~ 8月31日(日)

開催場所: 企画展示室

予算額: 451,000円

【開催趣旨】

本展示会では、葉や花などと違い地味にみえる種子や果実の姿やはたらき等を通して、植物の積極的な生きざま、特に繁殖戦略としての種子の様々な散布様式を浮き彫りにする。

【開催形態】

主催: 沖縄県立博物館

共催: 海洋博記念公園都市緑化植物園

協力: 澤嶽安喜氏・群馬県立自然史博物館

後援: 沖縄タイムス社



学芸員による展示解説

【展示構成】

◎スロープ: 沖縄や世界の植物の
タネ生態写真図鑑 (140種)

◎企画展示室

第1部 果実や種子とは

植物の進化

果実の形態と分類

世界の珍しいたね

第2部 種子分散 (散布)

沖縄の種子 (果実や種子図鑑)

重力散布性の種子

自動散布性の種子

動物散布性の種子

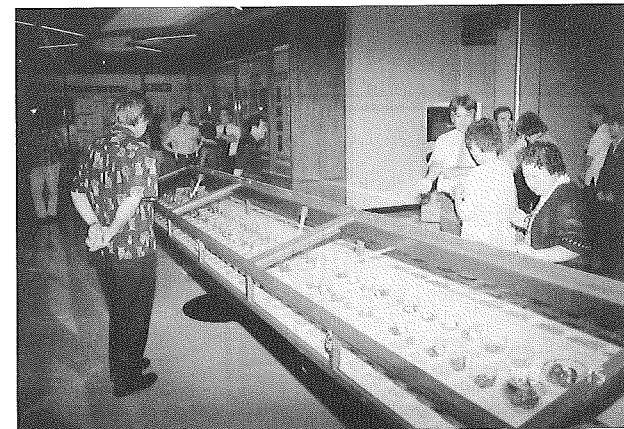
風散布性の種子

水散布性の種子 (海流・河川水など)

(まとめ)

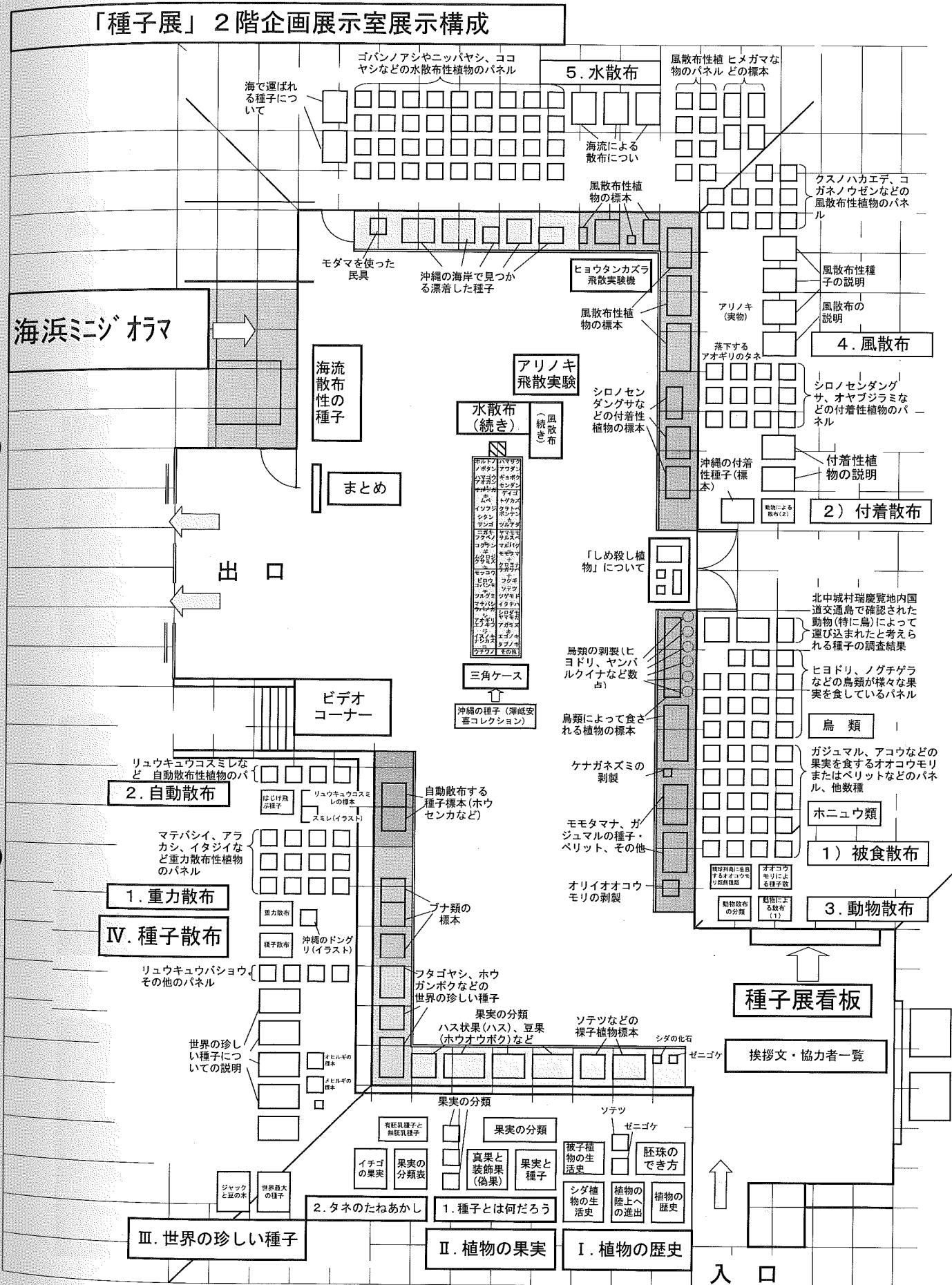
◎関連展示 (三角ケース): 沖縄のタネ

(澤嶽安喜氏種子コレクション: 300種)



観覧風景

種子展平面図



○企画展「戦前・戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」(担当：新里、西藏盛)

会期：平成16年2月10日（火）～2月29日（日）

会場：企画展示室

予算額：648,000円

【開催趣旨】

戦前は、首里城を中心に22件の建造物が国指定文化財に指定されていたが、今次大戦でそのすべてが破壊された。終戦直後の住居復興に力を注いでいた仲座久雄は、やがて、戦災を受けた文化財の復元に取り組み始める。また、文化財修理から学校建設と手広く建築に従事する一方で、琉球古来の建築を精力的に研究し、論考を多数発表した。仲座の文化財の研究は、のちの文化財復元へと大きくつながっていく。

本展では、仲座巖氏より寄贈された文化財に関する資料を活用し、戦前の文化財保護活動と戦後の文化財復元に生涯を通して尽力した仲座久雄という人物の足跡をたどることによって、沖縄の文化財を広く知らしめ、これから文化財保護のあり方を考えることを目的とする。

【開催形態】

主 催：沖縄県立博物館

協 力：仲座 巖

【展示内容】

- ◎ロビー：首里城正殿模型、守礼門模型
- ◎スロープ：仲座巖氏寄贈（仲座久雄氏が所蔵していた）写真パネル

◎企画展示室

- I. 文化財保護活動の流れ
 - i. 日本における文化財保護活動
 - ii. 沖縄における文化財保護活動

II. 仲座久雄

- III. 仲座久雄のとりくみ
 - 仲座久雄のあゆんだ道
(戦後復興、浦添ようどれ、園比屋武御嶽石門、守礼門、島をめぐる調査)

IV. 仲座久雄の姿勢

- i. 石は語る
- ii. 人・人・人

V. 明日へ



開会式・展示解説の様子

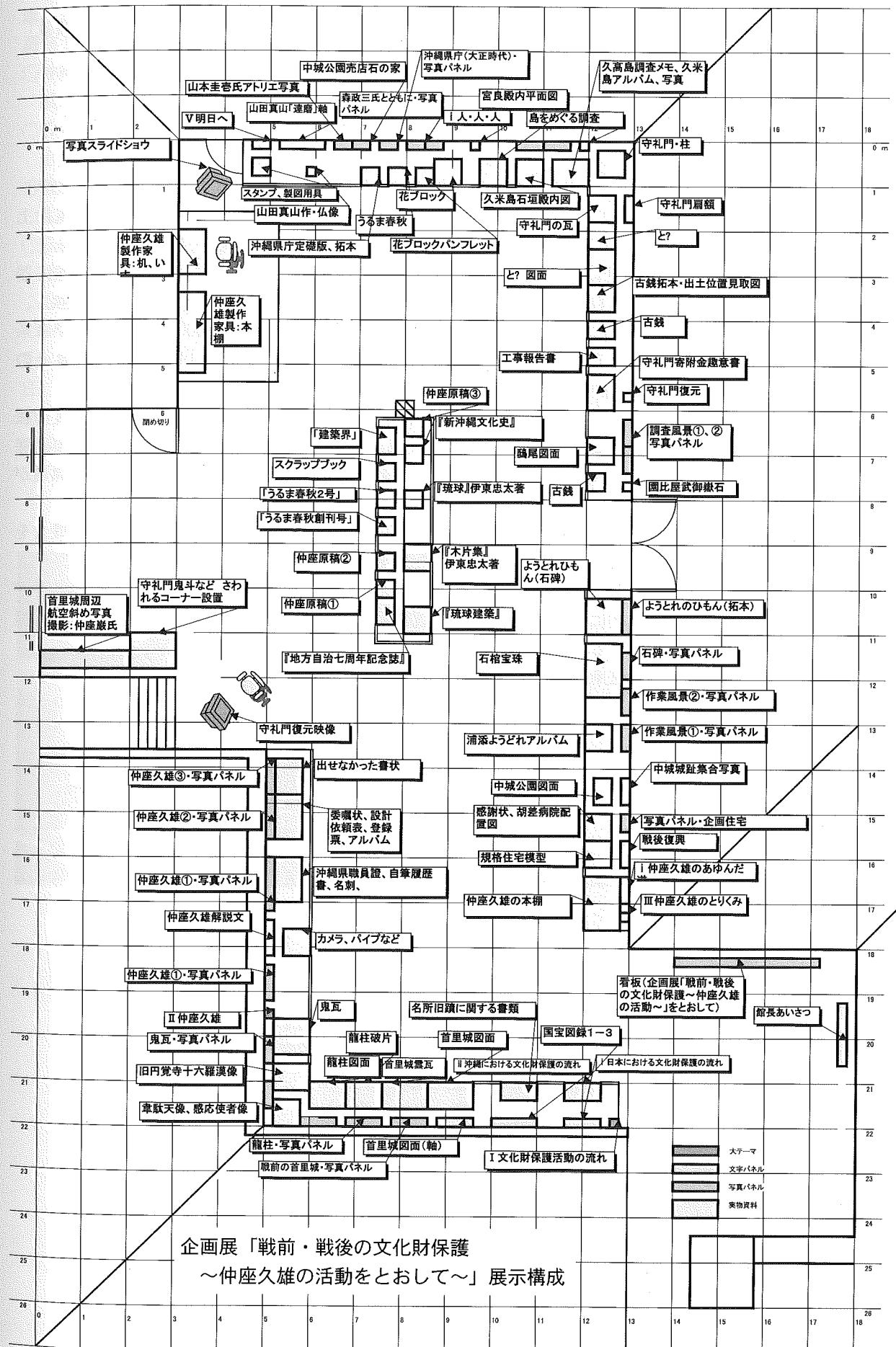


展示会の様子 I



展示会の様子 II

仲座展平面図



○企画展「工芸王国－てわざの今、そして未来へ」

平成15年度 沖縄県無形文化財保護伝承事業

(担当：赤嶺敏)

会期：平成16年3月9日（火）～3月21日（日）

会場：展示会（企画展示室・美術工芸展示室）、関連催事・講演会・映写会（講堂）

【開催趣旨】

沖縄県の無形文化財には、1972年「芭蕉布」（2000年指定解除）の指定以降、「びん型」（1973年）「本場首里の織物」（1974年）、「読谷山花織」（1975年）、「久米島紬」（1977年）、「八重山上布」（1978年）、「琉球漆器」（1991年）の6件の指定物件がある。

また、国指定重要無形文化財には、喜如嘉の芭蕉布（1972年）、宮吉上布（1987年）、琉球漆器（1985年）、紅型（1996年）、首里の織物（1998年）、読谷山花織（1999年指定、2003年指定解除）、芭蕉布（2000年）の7件、国選定保存技術には、琉球藍製造（1977年個人、2002年団体）、苧麻糸手績み（2003年団体）があり、工芸技術関係の無形文化財の国・県の指定件数は14件を数える。その質の高さと数において本県は全国のトップクラスの工芸王国である。

しかしながら、無形文化財を取りまく社会状況は、戦後の高度経済成長や近代合理主義、高度情報化などの生活環境や慣習の変化により、年々厳しさを増している現況にある。原材料や道具類の確保の問題、高価な手わざによる成果品の販売不振など、伝統的な手わざの保存・伝承には多くの課題が山積している。

本展示会は、多くの県民に対して無形文化財としての工芸技術の価値を再認識していただく機会を提供するとともに、保持者や伝承者にも作品を発表する機会を与える。

また、県指定無形文化財、国指定無形文化財の保存会、保持団体の枠を越えて、保持者や伝承者が横断的な交流、連携を図ることによって切磋琢磨し、本県の無形文化財の保存伝承、発展について考える契機とすることを目的とする。

本事業は文化庁の伝統文化伝承総合支援事業の採択を受けたものである。

【開催形式】

主 催：沖縄県教育委員会、沖縄県立博物館、沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会

【展示内容】

1. いろいろな文化財

文化財の種類を呈示し、その概要を示し、無形文化財の意味を伝える。

2. 無形文化財

① (ア) 染織技術：本場首里の織物・・・祝嶺恭子、多和田淑子、ルバース吟子

八重山上布・・・新垣幸子、中村澄子

久米島紬保存会・・・玉城カマド、山城ハツ、桃原禎子 他 計20名

(イ) 漆器技術：琉球漆器・・・嘉手納憑勇、金城唯喜、前田孝允

② 次代の担い手－伝承者と養成事業（資料点数28点）

③ 見本展示（琉球漆器製作工程見本展示：螺鈿、箔絵、沈金）

④ 参考作品 (ア) 国指定・市町村指定資料

(イ) 陶芸技術

(ウ) 選定保存技術

(エ) 市町村指定工芸技術

【関連行事】

1. 講演会

日 時：平成16年3月14日（日）14：00～16：00

会 場：講堂

講 師：柳橋眞氏（金沢美術工芸大学大学院専任教授、輪島漆芸美術館長）

講演要旨：

○沖縄県のベテラン作家・中堅・若手といった各世代が順調に、それぞれに応じたよい作品を製作し、展示してある。今後の発展への期待がもてる。

○5年間にわたる文化庁の伝統文化伝承総合支援事業を、受け入れて実施できる県は、全国的にみても限られている。今現在では、沖縄県だけかもしれない。

○技術は時代の中により便利な様に変化していいってよいのではないか。残していくかなくてはならないものは、風土の中に生きる素材ではないか。

○伝統継承者（若手）の生活環境が変化し、彼らがナイフで鉛筆を削るような、基本的と考えられる技術を、身につけないまま工芸の現場に登場してくるようになった。それに応じた継承方法を考える必要に迫られている。

2. 映写会

日 時：平成16年3月21日（日）14:00～16:00

場 所：講堂

映写作品：「本場首里の織物」、「八重山土布」

本事業の成果品としての映像が、映写発表された。参加者は32名、シネマ沖縄の担当者が映写を行った。



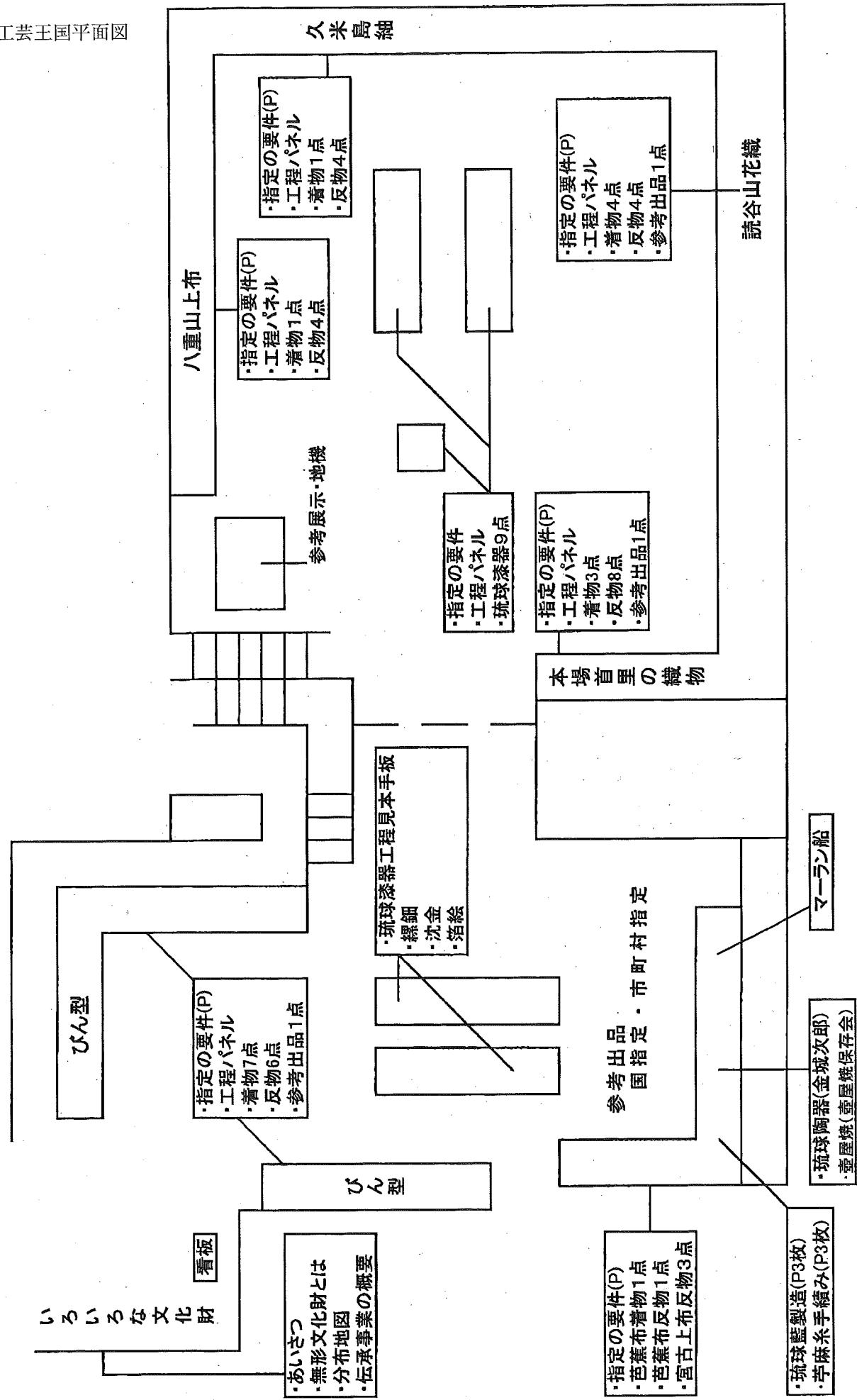
展示会の様子Ⅰ



展示会の様子Ⅱ

工芸王国平面図

久米島紺



○国際博物館の日パネル展 —博物館を知ろう—

(担当：新里 彩)

会期：平成15年5月6日（月）～5月25日（金）
会場：博物館スロープ及び2階エントランススペース

【開催趣旨】

国際博物館会議 (International Council of Museum=ICOM)は、博物館専門職員の技術向上及び博物館活動をより広く周知させることを目的に、5月18日を「国際博物館の日」と定めた。県立博物館では、この趣旨に賛同し、博物館及び学芸員の活動をとおして、博物館の活動・機能についてより多くの県民に紹介することを目的にパネル展を開催する。

【展示内容】

ICOMの説明及び県立博物館の歴史、県立博物館の活動、世界の博物館についてのパネル、刊行物等の展示を行った。

主な展示品

- ・パネル展趣旨・目的
- ・世界の博物館・美術館（写真パネル）
- ・県立博物館のあゆみ（文字・写真パネル）
- ・県立博物館の活動（各種展示会、教育普及事業、ボランティア、友の会等）
- ・刊行物、ポスター等

○県立博物館広報展

(担当：座霸 泰)

会期：平成15年5月26日（月）～5月30日（金）
会場：沖縄県庁1階ロビー（県民ホール、東側半分のオープンスペース）

【開催趣旨】

県民並びに県庁職員に県立博物館の存在を知らしめるとともに、より一層の親しみを持ってもらい、一人でも多くの県民に足を運んでもらうことを目的とする。

【展示内容】

県立博物館と館の収蔵品についてのパネル、企画展等のポスター等を製作し展示した。



県立博物館広報展

1. 県立博物館の歴史と活動
歴史、活動（資料収集、調査研究、展示、教育普及）、ボランティア会活動、友の会活動、刊行物、沖縄県博物館協会
2. 県立博物館収蔵資料紹介（写真パネル）
古生物、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸

○企画展 沖縄県立博物館「文化の日」関連企画

パネル展「首里・那覇のむかし風景」及び上映会「復帰前に収録された古典芸能」

(担当: 西蔵盛、兼島、仲座)

会期: パネル展・・・平成15年10月29日(水)~平成15年11月9日(日)

上映会・・・平成15年11月3日(月)午前の部9:30~11:30

午後の部12:00~16:00

場所: パネル展・・・博物館ロビー

上映会・・・博物館講堂

【開催趣旨】

県内の多くの文化財を収蔵している当館では、国民の休日である文化の日にちなみ、先祖から受け継がれた貴重な文化財を広くアピールし、より身近に親しんでもらうことを目的として、博物館を無料開放するとともに、古写真展や古い芸能映像上映会などの文化の日関連企画を開催する。

【事業内容】

・パネル展「首里・那覇のむかし風景」

戦災により破壊される以前の首里・那覇の町並みから、その風俗までを収めた貴重な写真資料を展示することにより、来館者に往時を偲ばせ、文化財の大切さを啓蒙する。

・上映会「復帰前に収録された古典芸能」

琉球政府時代に撮影された貴重な映像から、近年撮影された民俗芸能の映像を上映することで、文化財の多様なかたちを知るとともに、沖縄独特の民俗芸能の世界に浸ってもらう。

○上映作品

・午前の部(9:30~11:30)

『沖縄の歌と踊り』〔出演: 比嘉清子、島袋光裕、真境名由子 他〕(60分)

『御冠船踊』〔出演: 真境名由康、玉城盛重、親泊興照 他〕(40分) [1967年収録]

『琉球古典舞踊』〔出演: 玉城盛重、新垣松含 他〕(10分)

・午後の部(12:00~16:00)

『沖縄の歌と踊り』〔出演: 比嘉清子、島袋光裕、真境名由子 他〕(60分)

『御冠船踊』〔出演: 真境名由康、玉城盛重、親泊興照 他〕(40分) [1967年収録]

『琉球古典舞踊』〔出演: 玉城盛重、新垣松含 他〕(10分)

『二童敵討』〔出演: 宮城能造、宮城稔、金武良章 他〕(42分) [1972年収録]

『組踊「女物狂」』〔主演: 真境名由康、親泊興照、島袋光裕 他〕(31分)

『中城伊集 打花鼓』(12分)

5. 移動博物館

第28回移動博物館

会期：平成15年11月21日（金）～22日（土）2日間開催

開催地：伊平屋村

主催：沖縄県立博物館、伊平屋村、伊平屋村教育委員会

予算額：5,192,000円

【趣旨】

本県は琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っておいる。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見もらうことによって、文化の広域普及を図っている。第28回目は伊平屋村において開催した。

【内容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈野外観察会〉を実施した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然歴史、くらし」の2つの大きなテーマから構成した。また展示会場内にビデオコーナーを6ヶ所設け、各コーナーの展示に関連するビデオを上映した。さらに自然について学ぶ野外観察会を合わせて実施した。

【展示会】

会場：伊平屋村民体育館

会期：2003年11月21日（金）～22日（土）2日間・午前9時～午後5時

対象：幼・小・中・高校生、一般

観覧料：無料

【ビデオ放映】

大むかしの生物コーナー	恐竜関連映像
沖縄の自然コーナー	生物関連映像
〃 先史・古代文化コーナー	港川人関連映像
〃 琉球王国の成立と海外貿易コーナー	琉球王国関連映像
〃 美術工芸コーナー	伝統工芸関連映像
〃 くらしコーナー	民俗関連映像

【野外観察会】

日時：2003年11月22日（土）午前9時～12時

講座名：「伊平屋島の自然」

対象：学生、一般

定員：24名

講師：嵩原 建二（沖縄県立博物館学芸員）

【入場者数】

展示会 651人

野外観察会 47人

合計 698人

【展示品目録】

I 大むかしの生物

《骨格標本》

マンモス（複製）、サウロロフス（複製）、タルボサウルスの頭骨（複製）、プロトケラトプス、
プロトケラトプスの卵、古代鯨ケトテリウム

《化石標本》

アンモナイト石版、サンヨウチュウ、ハロビア、カルカロドン

《沖縄の化石》

リュウキュウジカ骨格標本、ミヤコノロジカ骨格標本、リュウキュウジカ角、リュウキュウムカシキヨン角、ミヤコノロジカ角、ミヤコノロジカ下顎骨、リュウキュウジカ下顎骨、リュウキュウイノシシ下顎骨、オオヤマリクガメ、ケナガネズミ

《沖縄産岩石鉱物類》

水晶、アメジスト、ガーネット、方解石、レインボーストーン、久米島安山岩、粟国凝灰岩
石垣島センリョク岩、伊平屋島チャート

《写真パネル類》

地質時代区分表、リュウキュウムカシキヨン

II 沖縄の自然、歴史、くらし

沖縄の自然《野鳥剥製標本》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、ツバメチドリ、
コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、ト
ラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、
チヨウゲンボウ、タシギ、カワセミ、シロチドリ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、
アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、カワウ、セイタカシギ、ミヅゴイ、アマサギ、オオクイナ、
ムラサキサギ、カンムリワシ、コミニズク、コハクチヨウ

《哺乳類剥製標本》

イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ダイトウオオコウモリ、ケナガネズミ、マングース、
イタチ

《爬虫類剥製標本》

ハブ、サキシマハブ、ヒメハブ、セマルハコガメ

《両生類液浸標本》

ウシガエル、イシカワガエル、ホルストガエル、ナミエガエル、イボイモリ

《写真パネル》

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナキマダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カン
ムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロ
ハラ、シロハラクイナ、アオバズク、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノ
グチゲラ、カイツブリ、パン、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メ
ジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロタヒバリ、オオチドリ、アマミヤマシギ、アマサギ、キヨ
ウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマカ、イヘ
ヤトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ

沖縄の歴史

[先史時代の文化]

港川人想定復元全身像（複製）、港川人頭骨（複製）、爪形文土器（野国貝塚）、荻堂式土器、市
来式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、尖底土器、くびれ平底土器（複製）、カムイヤキ
の壺、鍋形土器、線刻石板、炭化米、貝斧、石器、石鏃、自然遺物（貝殻）イモガイ・ゴホウラ
(ミホン含)、高麗瓦、滑石製石鍋、青磁皿、青磁碗、青磁盤、白磁小皿、赤絵皿染付皿、円盤状
製品

《写真パネル等》

発掘のようす（野国貝塚）、層の重なり、古代人のくらし、貝塚の遺物散布状況、渡具知東原遺跡（遠景）、野城遺跡（遠景）、港川フィッシャー遺跡（近景）、野国貝塚B地点（近景） 勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄先史年表、琉球弧の原始・古代史、貝の道、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、石斧の使用想定図

[琉球王国の成立と海外貿易]

《拓本・パネル類》

明孝宗勅諭、円覚禪寺記、国王頌徳碑、円覚禪寺記、

《古錢類》

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禮通宝、端平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目錢 10 (括)、寛永通宝 3 束

《勾玉類》

リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8個連）、リング4（小勾玉にビーズき）

《印 章》

尚育王の印

《金工品》

かんざし、万国津梁の鐘（複製）

《古文書・典籍類》

おもろさうし（複製本）<卷17> 2冊、中山世鑑（複製本）<卷1・3>、沖縄志 <卷1・2>、伊平屋島の銘苅大屋子職補任辞令書、ハチマチ、伊平屋嶋図

[近現代]

《写真パネル類》

琉球国絵図（先島諸島）、ランドサット沖縄諸島写真、国王頌徳碑、那覇の市場（ペリー日本遠征記）、那覇郊外の風景（）、僧侶と士族（バジルホール航海記）

○戦前の沖縄

初代尚円王御後絵（鎌倉芳太郎氏撮影）、首里城正殿（）、円覚寺仏殿（）、首里那覇全景（）、識名園（坂本万七撮影）、玉陵（） サーターグルマ（）、竹製品を売る店（）、木臼つくり（）、壺屋風景、物を頭にのせ運ぶ女性（）、首里金城の風景（）、市場風景東の大市・壺屋町（）、魚市（）、魚売り（）、ハンタン山（）、三人の婦人、守礼門、首里城繼世門外の赤田町（鎌倉芳太郎撮影）

○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

○戦後～現在

波之上宮、がれきと化した首里城、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、収容所内で発行したうるま新報、うるま新報、ハワイからの衣類到着、裁縫の授業（終戦直後）、城前小学校での演芸会、第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、A サインバーの内部・沖縄市、B 52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワード統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景

[美術工芸]

《絵 画》

首里平民図、伊平屋のノロの図

《漆 器》

黒漆山水螺鈿六角食籠、朱漆山水樓閣人物堆錦重箱

《書 跡》

尚育書「五言絶句」、中山副使向元模書「対句」、宜湾朝保短冊和歌「新樹風」

《彫 刻》

玉陵石獅子（一対）レプリカ

《陶 器》

線彫唐草文からから、赤絵花鳥文抱瓶緑釉掛瓢形瓶、荒焼徳利、赤絵菊花文対瓶、

吳須絵山水文筒花生、黒釉獅子、緑釉線彫魚文徳利

《染 織》

黒朝衣、木綿黄色地松皮菱繋に扇団扇菊牡丹文様胴衣、木綿白地カカン、木綿紺地 花織ティサジ、木綿白地絢 ティサジ、宮古上布裂帖、紅型製作パネル、八重山上布製作パネル、久米島紬製作工程写真パネル

[民俗]

《アジアの仮面と人形》

アジアの仮面と人形、仮面1（武人）、仮面2（般若）、仮面3（能面）、仮面4（鬼面）仮面5（鬼面）、仮面6（髭面）、仮面7（天狗）、仮面8（おかめ）、仮面9（アンガマの翁面）、仮面10（マウンガナシ面）、仮面11（インドネシアの仮面）、仮面12（タイの猿面）、あやつり人形1、あやつり人形2、あやつり人形3、あやつり人形4、あやつり人形5、兵士の冠、マレーシアの刀、人面盾の飾り物、バティツ（冠）・バティツの型

《民具》

沖縄の民具、ビーロー（台湾製米籠）、プンキー（台湾製粗笊）、チャーキー（台湾製笊）、カンマ（台湾製円笊）、ターヤ（台湾製籠）、ガロア（台湾製笊）、ンピア（台湾製苗籠）、ソクリ（韓国製飯櫃笊）、マグ（カヤ容器）、マグ（カヤ容器）

《沖縄の祭り・行事紹介》

国頭村安田のシヌグ、国頭村比地のウンジャミ、伊平屋村田名のウンジャミ（1）、伊平屋村田名のウンジャミ（2）、勝連町平敷屋のエイサー、那覇市の大綱曳、渡嘉敷村阿波連のハマウリ、久高島のイザイホー、久米島の六月ウマチー、来間島のヤーマスヅナカ、宮古平良市狩俣のウヤガン、宮古平良市島尻のパントゥ、池間島のミヤークヅツ、多良間島の八月踊り、石垣市四箇の豊年祭、石垣市川平のマウンガナシ、石垣市登野城のアンガマ、与那国島のカンブナカ

[体験コーナー]

クバンヌー、クバガサ、クバオージ、ンブル、バーキ、ティール、ガンシナ、サギゾーキ、オーダー、アダンバサバ、アンツク、オーダー用てんびん棒、着物



開会式テープカット



見学の様子(大昔の生物)



自然観察会の様子

○企画展 「あじまあ 沖縄の伝統とくらし 一沖縄県立博物館収蔵資料展一」

(担当：久場、仲座)

会期： 平成15年10月2日（木）～平成16年6月1日（火）

会場： 国立民族学博物館 常設展示場

【開催趣旨】

国立民族学博物館常設展示場において、沖縄県立博物館の企画・立案並びに収蔵資料の提供による展示を行い、沖縄の自然・歴史・文化に対する来館者により深い理解の実現に資することを目的とする。

【開催形態】

沖縄県立博物館と国立民族学博物館による共催

【展示内容】

日本の南西に位置する沖縄は、これまで“日本文化の古層がのこる辺境の島々”として位置づけられてきた。しかし、黒潮と風に囲まれた沖縄は、文物が往来する交通・交易の要衝として繁栄し、独自の歴史と文化を築き上げている。さらに、東西1,000km、南北400kmにおよぶ広大な海域に点在する島々は、それぞれに個性的で魅力に富んだ暮らしと文化を形成し、驚くほど多様な姿をみせている。今回の展示では、こうした沖縄の姿を“あじまあ（十字路）”という視点でとらえ、次の5つの部門に構成した。

《歴史と文化》

歴史上の交易品や美術工芸品、サンシンと泡盛などの資料を展示（歴史年表、おもろさうし、ハチマチ、南蛮甕、漆器、絵画、陶器、染織物、三線、工工四など）

《神々とともに（祭祀と信仰）》

沖縄の御嶽信仰と神女が使用する衣裳や祭具、来訪神の仮面や各種獅子像などを展示（御嶽写真、祭祀映像、ノロ衣裳、石香炉、各種祭具、各種獅子像など）

《アギのくらし》

沖縄の農耕や運搬に係わる民具を中心に展示（ヘラ・掘り串、鍬、丸箕、車棒、背負い籠、ガンシナ、バーキ、馬鞍など）

《ウミのくらし》

さんご礁の海を舞台に展開された沖縄の漁労習俗を展示（魚垣写真、サバニ網、櫂、鉛、餌木、その他の漁具、魚サンプルなど）

《住まいと衣・食》

沖縄の伝統的な居住空間や衣服、食の文化などを展示（住居写真・間取図、住居用具、仏壇・仏具、芭蕉布、黒豚模型、料理サンプル、自然素材の民具など）

V 教育普及活動

1. 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎え、博物館に対する県民の関心は日々高まってきている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では平成15年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成15年度の大きな特徴としては、一つめに、総合的な学習の時間の導入にともなう体験学習用道具の貸し出し業務や指導者のための体験学習講習、小学校4年生による社会科学習の一環としての民具体験学習が挙げられる。二つめには、文化講座「刻まれた歴史～金石文いろいろ～」及び、特別企画展関連「田中俊雄～沖縄の織物とその研究～」などの講座に多くの受講者から好評をいただいた。三つめには、博物館体験学習教室での教育関係者や一般成人を対象にした「総合的な学習のための豆腐づくり」「総合的な学習のための黒砂糖づくり」では教師のみならず多くの地域指導者の受講が目立ったことが挙げられる。日頃から地域の人々の興味や関心に目をむけながら、沖縄の歴史・文化・自然に関する情報をこれからも発信していきたい。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施していきたい。

教育普及課の事業への参加総数は、2,130名であった。

以下、平成15年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（特別文化講演会を含めて13回）
2. 第28回移動博物館（伊平屋村）の開催
3. 博物館体験学習教室の実施
4. 博物館シアターにおける映画の上映
5. ボランティア活動事業の実施
6. ホームページの作成
7. エル・ネット「オープンカレッジ」の実施
8. 博物館を利用する団体への研修
9. 来館者への展示解説
10. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
11. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
12. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
13. 児童生徒への学習相談
14. 団体見学者へのビデオサービス
15. マスコミ等への博物館事業の広報活動
16. 学校や地域等への体験学習用具の貸し出し
17. 博物館友の会への協力

2. 博物館文化講座

(担当：兼島吟枝)

予算額：197,000円

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習することを目的に1974年から始まった事業である。講座は毎月1～2回、土曜日もしくは日曜日の午後2時から4時までの2時間を利用し、当博物館講堂にて行っている。また、年に数回の野外講座も行っている。

平成15年度は、各分野に関連するテーマで歴史3回、考古2回、美術工芸2回、自然3回、民俗2

回の全12回の文化講座を実施し、受講者は合計789名となっている。講座は、講師の体験やエピソードを交えた話や当館の収蔵品を用いたりと、分かりやすい内容で受講者が楽しく学べるようにした。特に、特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」と関連した講座「地機の話～かたち・しくみ・使い方～」では、田中俊雄が書き残した図面をもとに復元した地機を用いてそのしくみと織り方について解説し、展示内容を理解するうえで意義深い講演となった。

また、1997年度から始めた「受講者アンケート」も継続して行った。これをもとに次年度の講座内容を決定するので、今後も受講者の声を反映させるためにアンケート調査を継続していく。

次に、今年度開催した文化講座の概要について紹介する。

○平成15年度開催博物館文化講座一覧

第333回 「刻まれた歴史～金石文いろいろ～」

講 師：崎間 麗進（郷土史家）

日 時：5月25日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：碑文をとおして琉球王国時代の生活について解説する。

参加者：147名

第334回 「身のまわりの自然をさぐる～ゲッチョ先生の骨の教室～」

講 師：盛口 満（フリースクール講師）

日 時：6月21日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：動物の骨を使って、骨からみた動物の特徴を解説する。

参加者：84名

第335回 「沖縄の星の民話」

講 師：知念 正永（郷土史家）

日 時：7月12日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：スライド等を使いながら沖縄の星の民話を紹介する。

参加者：92名

第336回 「琉球絵画のはなし」

講 師：津波古 聰（県立博物館学芸課長）

日 時：8月9日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：琉球絵画のあゆみを座間味庸昌の「雪中雉子の図」など当館の収蔵品をもとに解説する。

参加者：48名

第337回 「沖縄の文化財保護のあゆみ」

講 師：園原 謙（県教育庁文化施設建設室主任）

日 時：9月13日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：仲座久雄氏の活動を中心に、沖縄における文化財保護のあゆみを解説する。

参加者：58名

第338回 「白とくらし」

講 師：桃原 茂夫（糸満高等学校教頭）

日 時：9月28日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：臼を民俗的な視点から解説する。

参加者：31名

第339回「古写真にみる沖縄のうつりかわり」

講 師：野々村 孝夫（歴史研究家）

日 時：10月19日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：大正、昭和期に撮影された写真約200枚を紹介し、写真からみる沖縄の変遷を解説する。

参加者：79名

第340回「地機の話～かたち・しくみ・使い方～」

講 師：幸喜 新（沖縄市商工労政課嘱託）

日 時：11月22日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：田中俊雄が書き残した図面をもとに復元した地機を用いて、そのしくみと織り方について解説する。

参加者：95名

第341回「貝塚時代のアクセサリー」

講 師：島袋 春美（沖縄考古学会会員）

日 時：12月20日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：貝塚時代の人たちが身につけていた貝や動物の骨で作ったアクセサリーについて講演する。

参加者：28名

第342回「グスク巡り～南部地区～」

講 師：當眞 嗣一（県立博物館館長）

日 時：1月25日（日）

場 所：知念城跡、玉城城跡、糸数城跡

内 容：知念城跡、玉城城跡、糸数城跡を巡りながらグスクの歴史やその機能について解説する。

参加者：39名

第343回「亜熱帯林に生きる動物たち～25年のフィールドワークを通して～」

講 師：田中 聰（県立博物館指導主事）

日 時：2月21日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：世界的に報告例のない「落ち葉の山」をつくるミミズの発見や、両生類の中でユニークなイボイモリの繁殖活動などの研究成果とともに、フィールドで目の当たりにした動物たちの営みを紹介する。

参加者：51名

第344回「張り子玩具の世界～尾崎清次と『琉球玩具図譜』を中心に～」

講 師：久場 政彦（県立博物館指導主事）

日 時：3月13日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：尾崎清次著『琉球玩具図譜』から張り子玩具の歴史を紹介する。

参加者：37名

3. 衛星通信を利用したエル・ネット「オープンカレッジ」

(担当：兼島吟枝)

主 催：文部科学省

受信場所：沖縄県立博物館講堂

【趣旨】

この事業は、教育・文化・スポーツ・科学技術に関する情報を直接全国に発信する文部科学省の教育情報衛星通信ネットワークを使用して、文部科学省により平成11年度から実施している。

【内容】

エル・ネット「オープンカレッジ」は、文部科学省が運用する衛星回線を使った大学公開講座であり、自然・歴史・文化など幅広いテーマの講座を公開している。当館では主に沖縄に関するテーマの講座を上映している。

【取り組み方法】

1. 子ども放送局上映 2週間前に、正門前に立て看板を設置し広報を行う。
2. ホームページ等で告知を行う。

【総括】

この事業は沖縄の自然・歴史・文化などについて分かりやすく学習することを目的としている。そのため、沖縄に関すること以外についての講座の上映は控えている。また、第2・第3土曜日、第3日曜日には、「博物館体験学習教室」や「博物館文化講座」、「博物館シアター」を実施していることもあり、上映を見合わせる事もある。

平成15年度は、博物館事業との兼ね合いもあり2回上映した。参加者は、広報活動を日常的なものではなく上映前に行うことによる周知不足のためか、前年同様少なかった。次年度以降は、博物館事業と調整をしながら上映日を増やすとともに、広報活動を工夫する必要があるだろう。

4. 博物館シアター

(担当：伊波 一男)

予算額：296,000円

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために平成6年度から実施している事業である。

自然、歴史、民俗などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午前10時と午後2時の2回上映を実施している。

平成15年度は、「映像で見る沖縄伝統工芸の世界」と言うタイトルで、『琉球漆器～推錦～』『喜如嘉の芭蕉布～結の手わざ～』『紬の里～久米島～』『琉球藍～栽培から製造まで～』の4本を紹介した。また「夏休み子ども映画館」のタイトルで、夏休みに親子で楽しめるように『ガメラ～大怪獣空中決戦～』と『ゴジラ』を上映した。さらに、12月には「映像で考える『家族』」のタイトルで、ジャックレモン主演の『晩秋』を上映した。

○シリーズ〔映像で見る沖縄伝統工芸の世界〕

第59回 期 日：2003（平成15）年5月11日（日）

映画①：「琉球漆器～推錦～」カラースタンダード30分

内 容：県指定無形文化財の保持者らによる堆錦製作を記録。保持者前田孝允氏による映画の解説。

映画②：「喜如嘉の芭蕉布～結の手わざ～」カラースタンダード30分

内 容：国重要無形文化財に指定された大宜味村喜如嘉の芭蕉布保持団体による芭蕉布製作の記録。保持団体代表者の平良美恵子氏による映画の解説。

入場者：89名

第60回 期 日：2003（平成15）年6月15日（日）

映画①：「紬の里～久米島～」カラースタンダード30分

内 容：県指定無形文化財に指定された久米島紬。長い歴史に彩られた久米島紬の製作の記録。

映画②：「琉球藍～栽培から製造まで～」カラースタンダード30分

内 容：国選定保存技術琉球藍製造の保持者伊野波盛政氏ら保存会による、琉球藍の栽培から製作までの記録。

入場者：54名

○シリーズ〔夏休み子ども映画館〕

第61回 期 日：2003（平成15）年8月3日（日）

映画①：「ガメラ～大怪獣空中決戦～」カラービスタ95分

内 容：「ガメラ」シリーズ第3弾、ギャオスvsガメラの二大怪獣が激突する世紀の空中バトル！湯浅憲明監督をはじめとする大映特撮陣の総力が結集された作品。

入場者：228名

第62回 期 日：2003（平成15）年8月17日（日）

映画①：「ゴジラ」カラービスタ103分

内 容：「火を吹く巨大怪獣」「着ぐるみによる怪獣表現」など日本における全ての怪獣映画の原点であるゴジラ。まだ戦争の記憶が生き残る時代に「第五福竜丸」「原爆マグロ」などの社会不安を背景にしたストーリーで爆発的にヒットした。

入場者： 249名

○シリーズ〔映像で考える「家族」〕

第63回 期 日：2003（平成15）年12月21日（日）

映画①：「晩秋」ジャックレモン主演 カラービスタ95分

内 容：「年老いた父と息子の交流を通して、家族の絆を描く。ウィリアム・ワートンの原作を基に、製作・監督・脚本はゲイリー・デイヴィッド・ゴールドバーグ。

入場者：52名

5. 博物館体験学習教室

(担当: 玉城 善哲)

予算額: 422,000円

<事業の経過>

博物館体験学習教室の事業は、学校週5日制に伴う児童・生徒の自主的な活動を支援するための新規事業として、平成5年度から開設してきた。平成5年度から平成12年度までの8年間は、「子ども体験学習教室」の事業名で、小学校4年生以上の親子を対象とする体験学習であった。体験学習の内容が県民に普及するにつれて一般からの受講希望の声も多くなり、平成13年度から受講対象者を親子から一般まで拡大し、事業名も「子ども体験学習教室」から「博物館体験学習教室」に改め、県民の生涯学習にも応える事業として位置付けるまでに発展してきた。

「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」

講 師 : 玉城善哲 (沖縄県立博物館指導主事)

期 日 : 4月26日 (土)、10月18日 (土)、1月17日 (土)、1月18日 (日)

場 所 : 県立博物館及び体験農場

参 加 者 : のべ240名 (児童・一般対象)

内 容 : 当講座は、一年間を通してサトウキビの苗とりから黒糖ができるまでを追いかけていく講座である。沖縄県立博物館で唯一の勤労体験学習の講座として、平成9年度から継続してきた人気講座もある。今年度受講生のほとんどがサトウキビに触れるのも初めてであり、興味津々のスタートとなった。

一回目は、博物館講堂での開講式の後、西原町小那覇にある体験農場に場所を移動して、受講生自らサトウキビの苗をとり、押し切りを使って採苗学習をした。今回植え付けた品種は、体験農場の株出し品種農林8号を植えることにした。今年度も、博物館ボランティア数名が応援し、カマ、手オノ、押し切り等の農具の使い方から植え方の指導まで活躍して頂いた。当日は、学習グループを10グループに編成し、サトウキビの発芽と生長を願いながら植え付けていった。植えたサトウキビへの土かぶせや踏み付けの弱さが気になるグループもあったが時間通り終了することができた。植え付け後、ほとんど雨が降らず、サトウキビの発芽や生長にもその影響がでていた。二回目の講座は、自分たちが植えたサトウキビと実験的に植え付けたサトウキビの生長等を比較する観察学習と雑草とり、追肥、培土の学習をすることができた。三回目は、梢頭部まで約1m生長したサトウキビの刈り取りと株だしで大きく生長したサトウキビの刈り取り学習と繩結びやキビかつぎの体験をした。子どもたちの手で立ったままのサトウキビの梢頭部を切り落とすには危険を伴うことから倒した後梢頭部を切り落とすことにした。今の子どもたちは、カマの使い方に慣れてなく、茎の堅いサトウキビに向かって何度もなくカマを振り下ろす光景が見られた。ほとんどの受講生がキビ刈りは初体験であり、キビ刈り作業の重労働を体感したようであった。四回目の最後は、前日に刈り取ったサトウキビを原料にして黒糖づくりを行った。三転式のさとうきび搾り機を使って、キビしづり、しづり汁のこしとり、糖度計での糖度検査、搾り汁の性質検査、石灰の入れ方、シンメーナービでの煮込み方、濃縮汁の冷却、黒糖の型取り等を体験し、伝統的な製法での黒糖づくりを学んだ。



キビかつぎ体験



黒糖完成!

「総合的な学習のための豆腐づくり」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：5月24日（土）

場 所：県立博物館

参 加 者：50名（教育関係者・一般対象）

内 容：当日の講座は、幼稚園・小・中・高等学校等の教育関係者と一般の受講生を5つの学習グループに編成して実施した。体験内容としては、ふやかした大豆を石うすにかけてムラのない呉汁（大豆液）を生む体験、呉汁を布袋でこしとて豆乳にする体験、苦汁と打ち水を打つ体験、ゆし豆腐づくりの体験、箱詰めをして島豆腐をつくる体験等である。それぞれの体験が豆腐づくりの工程の基本であり、受講生は皆、真剣そのものであった。午前中という限られた時間内での体験学習の為に、石うすとミキサーを併用しながら豆乳づくりをすることとした。二人が向き合って石うすを回しながら大豆を入れ、水を適定量注ぐタイミングをとるのが難しそうであった。時間の経過とともに石うすから出てくる呉汁もしっかりとしてきた。呉汁が適量になるとグループの連携プレーによって布袋で呉汁をこしとり、豆乳をシンメナービに移していく作業が手際よく進められていった。グループ内での情報交換も見られ、和気あいあいの体験活動が展開された。今回の講座は、海水（瀬底島近海で採水）と市販の苦汁を使用して出来上がりの美味しさを比べてみることも試みた。ゆし豆腐や島豆腐にもそれぞれ微妙な味の違いはあるが、味覚には個性があり、「手作り一番！」の声が多く聞かれた。



リズム良く石うす体験



親子で楽しく石うす体験

「しっくいシーサーをつくろう」

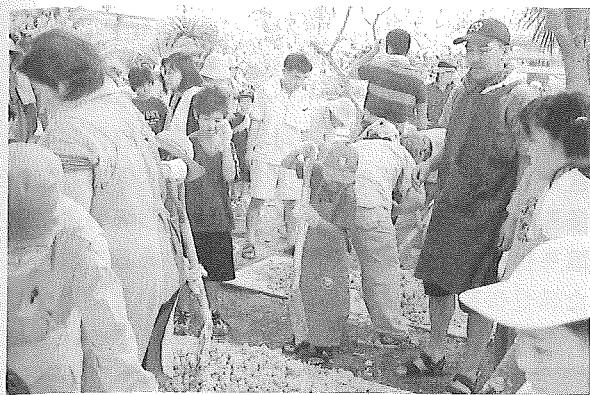
講 師：宮城光男先生（八洲工房主宰）

期 日：7月26日（土）

場 所：県立博物館中庭

参 加 者：80名（児童・一般対象）

内 容：当講座は、体験学習教室の中で人気の高い講座である。今年度も多数の申し込み（151名）があり、抽選で40組79名の受講生を決定した。しっくいシーサーづくりは、しっくい、白砂、白セメントを調合しての下地用しっくいづくりと調合して練り合わせたしっくいで頭部、胴体、足等の骨組みを接着するのに時間を要することから、今年度の体験教室講座から一日だけの6時間講座で実施することにした。これまででは、一日目の講座で必要な体験活動を午前中の限られた時間内にくくりすぎたこともあり、かけ足的になった部分や二日目のしっくいがかたくなって使いにくくなったり等があった。今年度の講座からは、受講生にとってはゆとりの中で考える時間を持ちながらしっくいシーサーの製作活動をすることができたのは大きなメリットであった。完成したしっくいシーサーもそれぞれに豊かな表情があり、心が和むようなすばらしい出来映えの作品が勢揃いした。



しつくいの下地づくり体験



シーサーづくり楽シイサー

「竹のおもちゃをつくろう」

講 師：上運天賢盛先生（日本凧の会々員）

期 日：8月16日（土）

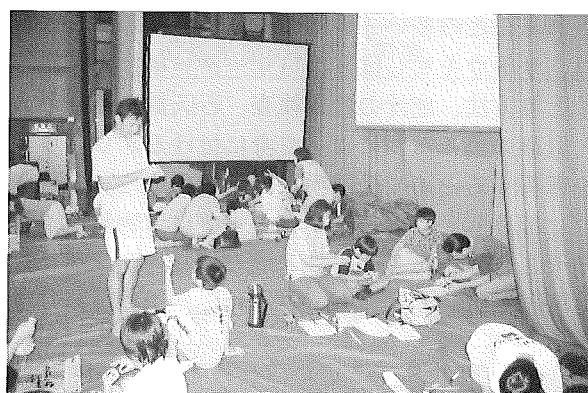
場 所：県立博物館

参 加 者：57名（児童対象）

内 容：小学校4年生から中学1年生までの児童生徒60名と保護者が参加して、竹ゼミ、竹笛、ガリガリトンボを作製した。おもちゃ毎の部品は、講師の上運天先生が事前に加工したことでもって予定通り講座も進行した。竹ゼミづくりは、頭になる部分に紙テープを貼ったり、胴体に羽根を取り付けて着色したりしながら手際よく完成していった。竹笛づくりでは、吹き口と歌い口の呼気の流れに微妙な調整があり、完成するまでに時間を要したが、美しい音色の出る竹笛をつくることができた。ガリガリトンボ（ギシギシトンボ）は、ナイフで竹の割り箸に等間隔の波形の刻みをつけていた。刻みの間隔や深さはプロペラの回転に影響が出てくるのでどの受講生も真剣そのものであった。おもちゃづくりは、パーツ毎に部品となる材料を加工していく学習も大切な活動であり、次回の計画から取り入れていくことも検討していきたい。



おかあさん手伝ってー



竹セミづくりに無我夢中

「ふうたんをつくろう」

講 師：上運天賢盛先生（日本凧の会々員）

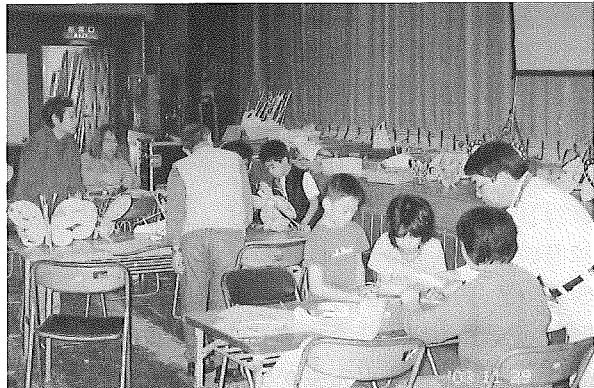
期 日：11月8日（土）、11月15日（土）、11月29日（土）

場 所：県立博物館

参 加 者：のべ51名（児童対象）

内 容：17名の受講生が琉球王朝時代の伝統的なふうたんづくりにチャレンジした。一日目は、横骨や滑骨と翼受軸等をカッターナイフで削ったり、アルコールランプの炎で竹に焼きを

入れて釣り針状に曲げたりしながらふうたんの胴体となる骨格づくりを学習した。二日目は、一日目の計画の中で出来なかった胴体の骨格づくりと羽根づくり・触角づくりであった。布で竹を擦りながら、摩擦熱で左右対称となる前羽根と後羽根を作るのは根気の入る時間のかかる作業であった。羽根をなめらかに形を整えていくには、竹の節の位置や長さにも気を付けながら何度もしごきの作業をすることがあった。節のところは折れやすく、曲げすぎたり、アルコールランプで加熱しすぎたりすると折れてしまう。作業に慎重さが要求される部分も多くあり、時間も忘れ、黙々と活動している受講生が印象的であった。最終日は、絵付けした羽根を取り付け、仕掛け糸を貼り、個性のある「ふうたん」「ハーベール（蝶）」を見事に完成させていった。



一生懸命



うまくいった「ふうたん」

「総合的な学習のための黒砂糖づくり」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：12月13日（土）

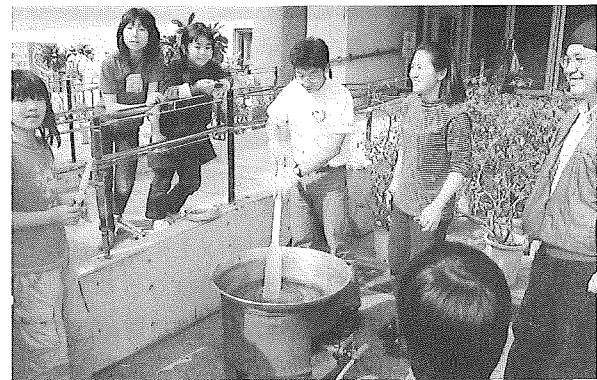
場 所：県立博物館

参 加 者：38名（教育関係者・一般対象）

内 容：当講座は、学校における総合的な学習の時間や地域での学習活動として実施されることの多い「黒糖づくり」を指導する教育関係者をサポートする講座である。体験する内容には、サトウキビしぼり機（サーテー車）の操作法、サトウキビの圧搾法、しぼり汁からの不純物のこしとり方法、庶汁の性質検査、石灰量の確認と入れ方、庶汁の搅拌方法、濃縮汁の冷却方法等、時間と経験の積み重ねによって身に付けるノウハウが数多くある。黒糖が生まれてくるまでの色々な学習を習得するために受講生は真剣であった。学習環境も一人一人の受講生が体験できるように4グループに編成し、それぞれのグループに博物館ボランティアの担当をつけることにした。黒糖づくりに使用する様々な道具の確認と場づくり、サトウキビ搾り機でのキビしぼり体験、圧搾間隔の調整、しぼり汁の不純物こしとり、石灰投入、搅拌、冷却等を学習し、手作りの黒糖をつくることができた。



キビしぼり体験



濃縮汁の搅拌体験

6. ボランティア活動

予算額：409,000円

沖縄県立博物館におけるボランティア活動は、平成5年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア活動」にもとづき進めてきた。平成15年は、5月に博物館ボランティア総会にて役員体制を強化し、また各月の定例ボランティア運営委員会で年間の事業内容を確認しながら事業を実施してきた。

博物館においては「博物館ボランティア養成講座」を6回実施し、講座を修了したものの中から活動を希望するものについてボランティアの登録を受け入れてきた。本年度は、男性16名、女性59名の計75名の登録があった。さらに登録をしたボランティアには「博物館のボランティアを考える」など計6回の「博物館ボランティア専門講座」を実施し、研修の機会を提供してきた。

今年度の活動の中で特徴的なことは、企画展「旅する種子」の活動支援に延べ102名の参加があったこと、また第15回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア沖縄2003」での「チムどんどん博物館ふれあい体験コーナー」への活動支援に延べ34名の参加があったことが挙げられる。

ボランティアの主な活動としては、新聞等の資料整理、博物館体験学習活動の支援、展示解説、民具体験学習の支援、企画展・特別展における展示室対応などを行ってきた。

年間をとおしてのボランティアの活動には、延べ776名の参加者、養成講座には延べ177名、専門講座には114名の受講者があった。

ボランティアの養成講座及び専門講座は、下記のとおりであった。

<博物館ボランティア養成講座>受講者延べ177名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	6月18日(水)	教育普及	玉城 善哲	博物館におけるボランティアの役割
2	6月25日(水)	博物館学	津波古 聰	博物館における活動ってどんなもの
3	7月2日(水)	考古学	仲座 久宜	歴史展示室の構成と特徴(考古編)
4	7月9日(水)	教育普及	喜久川智子	来館者への解説について
5	7月16日(水)	自然	嵩原 建二	自然史展示室の構成と特徴
6	7月23日(水)	美術工芸	赤嶺 敏	美術工芸展示室の構成と特徴

<博物館ボランティア養成講座>受講者延べ114名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	9月17日(水)	民俗	久場 政彦	私の薦めるスポットガイド
2	9月24日(水)	教育普及	玉城 善哲	博物館のボランティアを考える
3	12月3日(水)	自然	友利 哲夫	本部半島の自然について学ぶ
4	12月10日(水)	自然	座覇 泰	私の薦めるスポットガイド
5	1月7日(水)	博物館学	仲原 弘哲	私の博物館経営論
6	1月14日(水)	美術工芸	赤嶺 敏	私の薦めるスポットガイド

7. 支援活動

団体への学習支援

生涯学習時代を迎える、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきた。

1. 小中学校への取り組み

- ・小学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ4年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた。
- ・小学校4年生の博物館学習や民具体験学習が定着してきた。
- ・暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- ・三転式キビ搾り器・豆腐づくり用石臼の借用を希望する団体が学校から地域まで広がりをもつようになってきた。
- ・中学校の生徒は総合的な学習の時間を活用し、博物館学習に取り組む学校が増えてきている。

2. 高等学校への取り組み

- ・「総合的な学習の時間」の学習に向けての取り組みで沖縄県立首里高等学校1年生や那覇国際高等学校1年生、南部農林高等学校2年生が博物館学習で見学したり、首里高等学校の染織科の生徒が美術工芸室での課題学習で来館した。
- ・県外高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネートにより対応した。

3. 企業等による博物館研修

- ・沖縄県自治研修所主催による県新採用職員研修で、博物館を活用した郷土学習の一環として、沖縄の文化・自然・歴史などについての学習で214名が来館した。
- ・市町村新採用職員研修で博物館を活用した学習として、沖縄の歴史と文化や琉球の風物・民芸のビデオ視聴等による研修で221名が来館した。
- ・沖縄県中学校社会科教育研究会（中学校教諭）で「沖縄の世界遺産について」の館長講演と館内学習で80名が来館した。

4. デイ・サービス事業や老人会・婦人会の活動の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館される団体があった。
- ・大里老人会、愛地老人会や嘉手納町婦人会など地域の団体見学も増えている。
- ・幼稚園児や保育園児などの見学も増えている。

5. 矯正施設の児童生徒の見学受け入れ

- ・矯正施設の生徒が博物館見学で来館した。

VI 博物館学芸員実習

本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学で学芸員養成課程の講座が開設され、平成7年度からは琉球大学、平成8年からは県立芸術大学でも同科目が開設されたことに伴い、それぞれの大学から実習生を受け入れてきた。また、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として、受講生の総数を勘案しながら受け入れている。

平成12年度までは、各大学ごとに実習を受け入れて実施してきたが、当館の施設の狭隘と事業などの関係から平成13年度からは、年2回とし、各大学ごとの枠をはずして行った。平成15年度は、沖縄国際大学2名、琉球大学8名、沖縄県立芸術大学1名の他に茨城大学1名、青山学院大学1名、東京学芸大学1名、京都橘女子大学1名の計16名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

1. 実習科目と指導学芸員

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| (1) 博物館の管理運営（関係法規、組織、予算、関係団体等） | 友利副館長 |
| (2) 博物館保存施設と保存環境 | 平良 盛明 |
| (3) 学芸業務の考え方と実際 | 津波古学芸課長 |
| (4) 博物館資料の受入、分類、原簿記載実習 | 赤嶺 敏 |
| (5) 考古資料の取扱い実習 | 仲座 久宜 |
| (6) 歴史資料の取扱い実習 | 新里 彩・西藏盛 史子 |
| (7) 自然観察実習と環境教育 | 嵩原 建二 |
| (8) 自然史資料（動物・他）の取扱い実習 | 嵩原 建二・田中 聰 |
| (9) 自然史資料（化石、鉱物等）の取扱い実習 | 座霸 泰 |
| (10) 美術工芸資料（染織・書跡）の取扱い実習 | 赤嶺 敏 |
| (11) 美術工芸資料（漆器、陶器）の取扱い実習 | 津波古学芸課長 |
| (12) 美術工芸資料（絵画）の取扱い実習 | 津波古課長 |
| (13) 民俗資料の取扱い実習 | 久場 政彦 |
| (14) 博物館の展示方法について | 津波古学芸課長 |
| (15) 企画展示の実際について | 津波古学芸課長 |
| (16) 展示活動の実際と教育普及補助業務 | 赤嶺 新子、喜久川 智子 |
| (17) 教育普及の考え方と実際 | 上地普及課長 |
| (18) 教育普及活動の実践 I | 伊波 一男 |
| (19) 教育普及活動の実践 II | 玉城 善哲、兼島 吟枝 |
| (20) 実習日誌のまとめ | 津波古学芸課長 |

2. 実習期間

第1回 平成15年6月2日（月）～6月13日（金）

第2回 平成15年10月20日（月）～11月31日（金）

3. 実習生

第1回 (4名)

No	氏名	校名・学部名	専攻	学年
1	斎 悠記	沖縄県立芸術大学環境造形学科		大学院
2	向井 一雅	琉球大学理学部		4年次
3	篠井さくら	琉球大学農学部		4年次
4	国吉 綾子	琉球大学農学部		4年次

第2回 (14名)

No	氏名	学部学科	専攻	学年
1	知念 正作	沖縄国際大学社会学科		4年次
2	津波古 崇	沖縄国際大学社会学科		4年次
3	屋良 早香	茨城大学地球生命環境学科		4年次
4	宮良麻衣子	青山学院大学文学部		4年次
5	西江 太一	沖縄県立芸術大学環境造形学科		科目等履修生
6	平 瞳月	東京学芸大学環境教育課程	文化財科学専攻	4年次
7	大野 飛鳥	琉球大学法文学部総合社会システム科	法学	年次
8	石底 辰野	琉球大学法文学部国際言語文化学	洋史	年次
9	小橋川由紀子	琉球大学理学部海洋自然学科	生物学	4年次
10	小村 隼人	琉球大学理学部物質地球科学科	物理学	4年次
11	後藤 健志	琉球大学農学部生産環境科学科	森林生産環境	4年次
12	玉城さやか	京都橘女子大学文学部文化財学科		4年次

VII 資料の収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

平成16年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	591	25,673	6	1	26,271
	動物	1,105	18,335	498		19,938
	植物	0	4,400			4,400
美術工芸	絵画	82	543	1	4	629
	書跡	179	408	51	6	644
	彫刻	5	114	136	7	262
	陶磁器	431	3,285	464	537	4,717
	漆器	230	216	195	19	660
	染織	1,089	1,633	51	27	2,800
	工芸		1			1
歴史資料	2,718	6,911	333	126	10,088	10,088
考古資料	4	3,563	2,868		6,435	6,435
民俗資料	552	3,907	1,072	137	5,668	5,668
総計	6,986	68,989	5,675	864	82,514	82,514

2 新収蔵資料高

平成15年4月1日～平成16年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質					
	動物			1		1
	植物		3,050			3,050
美術工芸	絵画					1
	書跡		6			6
	彫刻					
	陶磁器		2			2
	漆器					
	染織		19			19
	工芸					
歴史資料	8	341			349	349
考古資料						0
民俗資料		109			109	109
総計	1	3,528	1	0	3,537	3,537

3. 平成15年度（2003）新収蔵資料

【寄贈の部】

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者
自然	植物 植物標本	70	比嘉寿
	植物 サク葉標本	2,891	高良拓夫
美工	書跡 謝花雲石「翼覃曠煦」	1	宮里和子
	書跡 島袋石扇「應規入矩方圓乃成」	1	当真博
	書跡 新垣芳石「遊」	1	東恩納道子
	陶磁器 灰釉四耳壺	1	栗原絵三子
	陶磁器 鉛釉双耳壺	1	大村泉一
	染織 木綿浅地絣着物 他	2	屋富祖スエ
	染織 紹巴蕉布風縞織物	1	北澤勇二
	染織 田中俊雄の研究資料 執筆・撮影 他	15	田中駒藏
	染織 紹織物	1	鎌倉秀雄
歴史資料	看護婦免状 他	9	與嶺文子
	集合写真	1	仲松江美
	琉球列島米国政府発行の日本旅行証明書 他	7	金城妙子
	守礼門図面 他	140	仲座巖
	ピカッピ 他	16	棚原節子
	答案用紙	6	浦崎ハツ
	Language Master	1	求八重
	軍払い下げのコート38R 他	2	當眞マカト
	乾隆通宝 他	11	平野常雄
	羽地ターブック (写真パネル) 他	2	仲程通信
	『四本堂詩文集』 他	2	原田禹雄
	琉球政府立博物館設計図 他	136	新垣真興
	US \$ 10 LIBRTY (1906) 他	2	稻嶺盛保
	「琉球国惣絵図」	6	琉米歴史研究会会长 喜舎場静夫
	竿秤 (大・小) 他	3	新垣真哉
	竿秤 (小) 他	2	宮城憲一
	麻姓田名家位牌	1	田名 弘
	耕 (ツガ) 他	5	浦崎キク
民俗資料	アダン毛筆	2	山城勝行
	厨子甕	31	山岡古都
	御札印刷道具一式	12	岡本恵昭
	石臼・獅子 (素焼き)	2	金城一史
	線香箱 (大・小) 他	2	宮城信勇
	柱時計	1	稻福政吉
	厨子甕	23	金武キヨ子
	大工道具 (一式)	5	宮城 行一郎
	ほやランプ (一式)	1	兼浜信規
	馬鞍	1	山城盛保
	ガラス浮き	1	伊良皆義夫
	玉陵厨子甕ポジ・フィルム	1	小橋川門福
	豆腐臼 (一对)	1	久場建二・聖子
	ジュラルミン製擂鉢・鉢	2	八木元伸
	ビントー (弁当箱)	1	東恩納力
	米軍生地仕立洋服 他	14	翠宮城澄
	サバニ模型	2	石川善照

【収集の部】

分類	品名	数量	備考
自然	コマッコウ全身骨格	1	石垣島より収集

【購入の部】

分類	品名	数量	備考
歴史	「程順則肖像画」(複製)	1	福岡市(個人蔵)より複製
	山原文書	7	購入

4. 所蔵の指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成16年度3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館	沖縄県
	混効驗集	2冊	〃	〃	〃
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	沖縄県立博物館	沖縄県
	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧円覚寺樓鐘）	〃	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭琉球國中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	沖縄県立博物館	沖縄県

県指定文化財（有形文化財）

平成16年度3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1躯1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃	〃
絵画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57. 3. 4	〃	〃
	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃	〃
	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃	〃
	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
工芸品	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
	色象嵌栗絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧靈応寺鐘）	〃	昭60. 6. 18	〃	〃
	梵鐘（旧普門禪寺鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧天竜精舍鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧大安禪寺鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃	〃
	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	〃	〃	〃
典籍	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃	〃
	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	〃	〃
	評定所作格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	評定所作格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	沖縄県立博物館	沖縄県
書跡	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元. 9. 29	〃	〃
	扁額「凌雲」 林麟焴書	1面	〃	〃	〃
	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
古文書	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
	銅鐘残欠（旧波上官朝鮮鐘）	1口	昭60. 6. 18	〃	〃
歴史資料	安国山樹花木記碑	1基	平元. 9. 29	〃	〃

5. 博物館収蔵資料整理事業

(担当：嵩原・仲座・久場)

I. 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として57年の歴史を有し、現在78,151点の資料が収蔵されている。この約50年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の管理においては一部未整備である。このことから当事業は、今後の新館開館移転のために、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動等に支障がないような移転準備作業の一環として、実施されているものである。これまでの成果として、収蔵されている厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製等を行った。分類・整理等については、委託業務として実施し、かなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館情報のネットワーク化を推進していくことが不可欠である。このことから、その要望に応じた収蔵資料一覧表の作成や、収蔵資料の検索等が可能になるように平成6年度に収蔵資料管理システムを構築し、以来、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）を推進し、収蔵資料の基礎情報となる文字及び画像データの充実をはかるため、データ入力等の作業を継続的に行ってきただところである。

○予算額：1,651,000円

II. 事業の内容及びこれまでの実績

◎収蔵資料整理作業

1. 収蔵資料の台帳整理・未登録資料の分類・整理登録
2. 保管庫・整理棚の設置（プレハブリース・棚の製作）
3. 各分野整理棚製作（委託）
4. 写真パネル等の作成・整理（委託）
5. 厨子甕の実測・整理作業（委託）
6. 自然史標本（剥製）の作成（委託）
7. 自然史資料標本庫（植物標本庫）製作委託
8. 民俗資料厨子甕保管庫の増設・補強（委託）

◎台帳電子化（コンピュータ化）作業

1. データベースシステムの開発・導入・運用
2. システムのハード機器及びソフトウェアの整備
3. 収蔵資料データ入力（文字・画像）等データ整備
4. データベースシステムの点検・拡張
5. 台帳原簿の印刷

◎新収蔵資料目録作成（上巻・下巻2分冊）

◎写真撮影及び写真整理作業

1. 収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管
2. 収蔵古写真の複製・整理作業
3. 歴史資料のマイクロ化

III. 平成15年度事業実績

（1）資料整理作業

民俗資料の厨子甕の資料照合・整理作業

（2）台帳電子化（コンピューター化）作業（委託）

収蔵資料管理用データベースへのデータ入力（委託：図書受入資料・新収蔵資料データ等）

データベースシステムの点検・拡張（委託）

6. 博物館新館移転資料整理事業（沖縄県緊急地域雇用創出特別事業）

(担当：嵩原、久場、仲座)

(1) 事業概要

県立博物館では、館の老朽化・狭隘化にともない、平成19年の開館を目標に沖縄県立博物館・美術館（仮称）の新館建設を計画している。新館への移転の際には、現在展示室及び収蔵庫に収蔵されている資料をすべて移動する必要があるが、そのためには収蔵資料の内容、数量、収蔵場所等のより詳細な情報を事前に掌握する必要がある。そこで本事業では、移転作業を円滑に進めるため、収蔵資料の各種情報を入力したデータベース作成を中心に2ヶ年事業で実施する。

本事業は資料整理作業員、情報処理機器及び消耗品、作業員の労務管理、機器類の操作指導・管理等を一括として業務委託するものである。この内容で指名競争入札により落札した業者と委託契約を結び、のべ22名の労働者を前期・後期の2期に分け、6ヶ月未満の期間で雇用し、各分野の担当学芸員指導のもと整理作業を行った。

○委託業者： 株式会社 国建システム（代表者名：亀谷長用）

○予算額：21,012,000円

○整理作業員一覧（のべ22人：前期10人+後期12人）

分 野	整 理 作 業 員 氏 名	
	前 期（1期）	後 期（2期）
歴 史	佐久川志麻 大上直美	渡久地弥生 仲地涼子 宮城友紀 譜久村照代
民 俗	浅川英美 大城拓也	熊谷樹
自 然	當山直美 喜屋武聰子	江藤奈穂子 大城勝枝 玉城さおり
美 工	山城敦子 新城久二代	大仲利江子 勝連涼子
考 古	山城直子 知念政樹	砂川正幸
データ整理	—	屋嘉比貴文

(2) 作業内容・成果

整理作業は、既存の収蔵台帳をもとに原資料を照合し、現状の確認、法量計測、写真撮影等を行い、収蔵場所等の情報を含めたデータを入力したデータベースを構築する。今年度作業を終えた状況は下表のとおりであるが、未整理分は引き続き次年度に整理作業を行う予定である。

○整理作業実績（件数）

平成16年3月15日現在

分野	作業資料数 A+D+E± α	台帳数(A) B+C	台帳照合(B) A-C	次年度整理 (C) A-B	寄託資料(D)	未登録・ 学芸資料(E)	備 考
歴 史	2,786	2,027	1,611	416	—	—	
民 俗	1,111	648	640	8	—	463	厨子甕のみ
自 然	6,895	6,367	6,362	224	179	—	
化 石	858	858	853	5	—	—	
美 工	2,122	1,871	1,814	57	38	243	
考 古	1,296	579	296	283	162	555	
合 計	15,068	12,350	11,576	993	379	1,261	

7. 修理事業

目的：博物館資料は、貴重な歴史遺産であり、その多くは二度と同等の資料を収集する事が出来ないものが多い。また、制作されてから長い年月を経ているため劣化が進んでいる資料や、材質が弱く取扱に細心の注意を払わなければ破損する可能性が高いものが含まれている。これらの資料は、展示資料として不可欠であるが、長期的な展示には耐えられない状況のものがある。

資料修理は、これらの資料を改善し、資料の健全化を図り、将来的な展示の質的な向上を図ることを目的とする。

業務内容

1. 書跡の修理

- 1) 資料名：額 謝花雲石書、額 新垣芳石書
- 2) 修理内容：①額の改修、②額装から軸装にする
- 3) 修理者：当山堂（代表者：当間博、石川市東山2-3-7）
- 4) 予算執行額：305,550円

2003年度に寄贈受入した書跡資料のうち劣化の進んでいた資料を修理した。雲石・芳石は共に、戦後の沖縄の書家として代表的な作家であり、今後の常設展等において展示活用するために修理の必要があった。

2. 琉球国惣絵図の修理

- 1) 資料名：琉球国惣絵図
- 2) 修理内容：裏打ち修復・台紙張り 6枚
- 3) 修理者：当山堂（代表者：当間博、石川市東山2-3-7）
- 4) 予算執行額：3,000,000円

琉米歴史研究会からの寄贈資料である本資料は、国頭間切、南風原間切、北谷間切、喜屋武間切、大里間切、中城間切の6枚からなる。王府により、1780年～1790年の間に制作されたものと思われ、民俗・歴史・美術工芸の面からみて重要な資料である。絵図は相当な薄さの和紙に描かれており、描画部の周辺の痛みが進んでいる。この資料を受け入れた後も、良好な状態で保存し、常設展等で展示活用するためには、早急な修理の必要があった。

8. 化石資料受入事業

(担当：座覇 泰)

1. 事業の目的と経過

予算額：459,000円

長谷川善和氏より寄贈を受けた沖縄産化石資料の整理作業と、収蔵している岩石・化石資料の整理作業、また、県内各地から資料を収集し、将来の新館展示に向けて収蔵品の充実を図ることを目的として平成7年度より行われている。

長谷川氏寄贈の化石資料が30,000点を超える膨大な数であり、20,000万点余の整理は終えているものの、その後も追加資料が相次いだため未だ整理作業は継続中である。

長谷川コレクションのうち整理作業が終了したのは、宮古島ピンザアブ洞穴産のミヤコノロジカ化石、ハタネズミ化石、港川フィッシャー産トリ類化石であり、当館で所蔵しており現在作業を継続しているのは、伊江島ゴヘズ洞穴産と久米島下地原洞穴産のシカ・キヨン類化石などである。

2. 事業の内容及びこれまでの実績

①資料整理作業

収蔵資料の台帳整理、未登録資料の分類・整理作業

化石資料の分類、部位同定・修復、登録作業

岩石・鉱物資料の同定、分類

登録後の資料の計測とナンバリング

②資料受入作業

長谷川コレクション・・・・・・・・シカ類化石を中心とする約30,000点
ミヤコノロジカ復元骨格のレプリカ作成
下地原洞穴出土乳児人骨のレプリカ作成
港川フィッシャー産トリ化石・・・・約1,000点
宮古島産ハタネズミ臼歯化石・・・・約1,000点
南北大東島産アホウドリ化石・・・・約200点

3. 平成15年度事業実績

①資料整理作業

長谷川コレクション部位同定・整理作業
(宮古島ピンザアブ洞穴産のミヤコノロジカ化石、ハタネズミ化石は整理終了)
宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ標本整理

②情報のデジタル化

岩石・鉱物・化石資料のデジタルカメラでの撮影・・・・当館に収蔵品として登録されている化石・岩石・鉱物資料の撮影は終了。長谷川コレクションにおいては8,000点ほど終了。

③資料一覧の発刊

資料追加が今後も予想され、整理作業の完了まで待つとまだ数年必要とされる。そのため、中間報告として「長谷川コレクション琉球列島産化石資料一覧」を発刊した。

9. 資料貸出

展覧会名：常設展示

主 催：沖縄県立埋蔵文化財センター
会 場：同上

貸出期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日まで

貸出資料：化石資料／伊江島ゴヘズ洞穴産リュウキュウジカ化石 12点

展覧会名：金色のかざり－金属工芸にみる日本美－

主 催：京都国立博物館
会 場：同上（本館）

貸出期間：平成15年9月24日～12月10日まで

貸出資料：歴史資料／金銅雲龍文簪（伝聞得大君所用）、銀指輪

展覧会名：ふるさと文化振興「地域伝統文化伝承事業」「本場首里の織物」

主 催：本場首里の織物保存会
会 場：識名園

貸出期間：平成15年5月9日～5月16日

貸出資料：美工資料／道屯織着物、絹藍地花倉織琉球衣裳

展覧会名：第45回子供読書週間行事「世界遺産展－郷土資料を中心として」

主 催：沖縄県立図書館
会 場：沖縄県立図書館こども室
貸出期間：平成15年4月18日～5月14日
貸出資料：考古資料／勝連城跡、中城城跡、首里城跡、座喜味城跡、今帰仁城跡の写真パネル及びグスク分布図

展覧会名：開館10周年記念特別企画展「4つの窓と釜山－東アジアの中の日韓交流－」

主 催：佐賀県立名古屋城博物館

会 場：同上

貸出期間：平成15年10月8日～12月5日

貸出資料：歴史資料・美工資料・民俗資料／琉球中山王使者登城図 上巻、琉球人座楽並躍の図 他
11件11点

展覧会名：今甦る80年前の沖縄～鎌倉芳太郎の撮った遺宝・風物～

主 催：沖縄テレビ放送株式会社・琉球新報社

会 場：浦添市立美術館

貸出期間：平成15年9月15日～10月24日

貸出資料：美工資料・歴史資料／円覚寺大雄殿壁画、安国山樹華木記碑 他 5件5点

展覧会名：黎明館20周年記念企画特別展「激動の明治維新」

主 催：鹿児島県歴史資料センター黎明館

会 場：同上

貸出期間：平成15年9月19日～11月14日

貸出資料：歴史資料／大安禪寺鐘

展覧会名：特別企画展「チャイナタウン展／もうひとつの日本史－博多・那霸・長崎・横浜・神戸－」

主 催：福岡市博物館

会 場：同上

貸出期間：平成15年8月26日～11月4日

貸出資料：美工資料・歴史資料／首里那霸之図、渡闈航路図、進貢船の図 他 6件6点

展覧会名：「琉球の至宝と型絵染－人間国宝鎌倉芳太郎の全仕事－」

主 催：香川文化会館

会 場：同上

貸出期間：平成15年10月20日～12月10日

貸出資料：歴史資料・美工資料／冠船之時御道具之図、ときさうし、飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳

展覧会名：「あじまあ 沖縄の伝統とくらし－沖縄県立博物館収蔵資料展－」

主 催：国立民族学博物館

会 場：同上

貸出期間：平成15年9月11日～平成16年6月11日

貸出資料：民俗資料・歴史資料・美工資料／おもろさうし 他 151点

展覧会名：人間国宝作品展

主 催：（財）エム・オー・エー沖縄事業団

会 場：沖縄コンベンションセンター劇場棟会議室

貸出期間：平成15年10月3日～10月6日

貸出資料：美工資料／絹紺読谷山花織着物、読谷山花織

展覧会名：「豊後府内 南蛮の彩り－南蛮の貿易陶磁器」

主 催：大分市歴史資料館

会 場：同上

貸出期間：平成15年10月24日～平成15年12月6日

貸出資料：考古資料／勝連グスク出土 鉄絵ケンティ碗(破片)、赤絵皿、青磁酒海壺(破片) 3件 7点

目的：沖縄県立看護学校教育史（仮名）編集のため

団体名：あんずの会

貸出期間：平成15年11月7日～平成16年1月7日

貸出資料：歴史資料／看護学校写真集

展覧会名：第9回国場川水あしひ

主催：那覇市環境保全課

会場：奥武山公園（いこいの広場）特設会場

貸出期間：平成15年11月27日～12月2日

貸出資料：写真パネル／水辺の鳥 30件30点

展覧会名：国立劇場おきなわ開場記念特別展

主催：（財）国立劇場おきなわ運営財團

会場：同上内資料展示室

貸出期間：平成16年1月14日～2月16日

貸出資料：民俗資料／三線盛嶋開鐘附胴、知念積高工工四（写本）

展覧会名：「美しき琉球芸能—〈もの〉たちと語る心と形」展

主催：独立行政法人日本芸術振興会

会場：同上 伝統芸能情報センター資料展示室

貸出期間：平成15年12月15日～平成16年4月9日

貸出資料：美工資料／琉球人座楽並躍り之図、冊封使行列図（レフリカ）、絹稻妻に花の丸文様衣裳（レフリカ）

展覧会名：企画展「知花花織～受け継がれるモノそして受け継ぐ物」

主催：沖縄市郷土資料館

会場：同館 特別展示室

貸出期間：平成16年1月22日～2月17日

貸出資料：美工資料／紋織衣裳 経緯絣に経浮花織、知花花織頭巾

展覧会名：常設展示

主催：国立歴史民俗博物館

会場：同上

貸出期間：平成15年4月1日～16年3月31日

貸出資料：考古資料／沖縄県嘉手納貝塚出土荻堂式土器 2点

展覧会名：第6回企画展「生きた化石を探る」～古代からの使者～

主催：アクアワールド茨城県大洗水族館

会場：同上 企画展示室

貸出期間：平成16年3月10日～5月15日

貸出資料：自然資料／イリオモテヤマネコ剥製標本、ヤンバルクイナ剥製標本

10. 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約7万8千点余りある。これらの資料から害虫その他の有害菌を防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年1回行っている。

平成15年度は5月12日から16日までの期間を閉館して実施した。履行場所等は、地下・1階2階の各収蔵庫のほかに各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務所・講堂はDDVP燻煙によって害虫駆除を行った。

燻蒸実施結果報告

場 所	内容積 m ³	単位薬量 g/m ³	投薬量 Kg	燻蒸種類	投入時間 h	残留ガス濃度 mg/ドル	供試虫
1 F 収蔵庫（大）	323	46.4	15	密閉	24	21	全死
2 F 漆器収蔵庫	540	55.5	30	×	×	24	×
民俗展示室	1,357	51.5	70	×	×	20	×
美術工芸展示室	864	49.7	43	×	×	18	×
自然展示室	813	49.2	40	×	×	20	×
歴史展示室	2,162	50.8	110	×	×	19	×
地下収蔵庫	821	49.9	41	×	×	32	×
扁額「徳高」	5	200	1.0	包込み	×	31	×
首里城模型	48	52.0	2.5	×	×	21	×
湧田プレハブ	224	66.9	15	×	×	34	×

VIII 新館展示調査等

県立博物館では、館の老朽化・狭隘化にともない、平成19年の開館を目標に沖縄県立博物館・美術館（仮称）の新館建設を計画している。現在、開館へ向けて展示資料のみならず、その展示・収蔵及び施設・設備等について、さまざまな観点から検討を進めているところである。

博物館学芸員は、各分野でこれらの展示計画の精度をより高める上で、原資料及び環境等を実見する必要が生ずる場合がある。また、展示手法や収蔵方法・設備等の面では、他館の状況を参考にすることにより具体的な計画を図ることができることから、新館建設のソフト面構築について委託契約を交わすトータルメディア開発研究所の依頼により、新館展示調査を実施している。

展示調査の状況は次のとおりである。

津波古 聰（学芸課長）

○調査地（期間）：東京都（平成15年12月16日～18日）

嵩原 健二（充指導主事）

○調査地（期間）：神奈川県・千葉県（平成16年1月15日～17日）、宮古島・西表島（平成16年1月24日～26日）、奄美大島（平成16年3月11日～13日）

田中 聰（充指導主事）

○調査地（期間）：国頭村（平成16年1月21日）、宮古島・西表島（平成16年1月24日～1月26日）、与那国島（平成16年3月17日～3月19日）、北九州市立自然・歴史博物館、宮崎県総合博物館（平成16年1月14日～1月16日）

久場 政彦（充指導主事）

○調査地（期間）：石垣市伊原間（平成15年9月18日～9月19日）、大宜味村（平成15年10月17日）、大阪人権博物館、京都国立博物館、同文化財修理所、兵庫歴史博物館、日本玩具博物館（平成16年2月24日～2月26日）

赤嶺 敏（指導主事）

○調査地（期間）：大阪人権博物館、京都国立博物館、同文化財修理所、兵庫歴史博物館、日本玩具博物館（平成16年2月24日～2月26日）

座朝 泰（指導主事）

○調査地（期間）：茨城県自然博物館、群馬県立自然史博物館、国立科学博物館（平成16年1月20日～22日）

仲座 久宜（学芸員）

○調査地（期間）：大宜味村（平成15年10月17日）、大阪人権博物館、京都国立博物館、同文化財修理所、兵庫歴史博物館、日本玩具博物館（平成16年2月24日～2月26日）

西藏盛 史子（学芸員）

○調査地（期間）：東京都（平成15年12月16日～18日）

上地 弘伸（教育普及課長）

○調査地（期間）：大阪府、滋賀県、京都府（平成15年7月2日～7月4日）

玉城 善哲（充指導主事）

○調査地（期間）：大阪府、滋賀県、京都府（平成15年7月2日～7月4日）

兼島 吟枝（学芸員）

○調査地（期間）：伊平屋村（平成15年11月19日～11月21日）、東京都（平成15年12月16日～18日）

IX 刊行物

No	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館年報第36号	定期	700	A4(85)	前年度の博物館活動の状況や概要
2	平成14年度新収蔵品展	定期	1,000	A4(21)	前年度受け入れた資料を紹介する展示会図録
3	沖縄県立博物館紀要第30号	定期	1,000	A4	学芸員の調査研究報告書
4	特別企画展「沖縄織物へのメッセージ—田中俊雄の研究—」	不定期	1,000	A4(48)	特別企画展の図録で、沖縄織物の研究を概説したもの。
5	企画展「戦前・戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」	不定期	1,000	A4(40)	企画展の図録で、沖縄の文化財保護を仲座の足跡をとおして概説したもの。
6	平成15年度博物館 体験学習教室	定期	1,000	A4(54)	平成15年度教育普及事業として実施した児童生徒を対象とした体験学習教室の記録。
7	平成15年度ボランティア活動	定期	1,000	A4(55)	平成15年度ボランティアの活動内容報告。
8	博物館だよりNo.50	定期	2,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌。
9	年間行事案内リーフレット	定期	8,000	変形A4	平成15年度の年間行事案内。
10	年間事業案内ポスター	定期	1,000	B2変形	平成16年度の年間行事案内。
11	日本文リーフレット	定期	30,000	変形A4	当館の展示案内。
12	第27回移動博物館 リーフレット	定期	1,000	A4(12)	伊平屋村で開催された移動博物館の展示案内。
13	長谷川コレクション 琉球列島産化石資料一覧	不定期	700	A4(63)	長谷川コレクションの中間報告。

X その他の活動

1. 沖縄県博物館協会

平成15年度沖縄県博物館協会の理事会・総会・春期研修会は、6月5日（木）に、名護市民会館を主会場として開催された。

理事会は名護市中央公民館第三会議室において執り行われ、総会資料等のほか、沖博協顕彰者の確認、そして今年度改選される15・16年度役員の審議を行った。終了後名護市民会館中ホールへ会場を移し93名の参加のもと平成15年度総会・春期研修会が開催された。総会終了後「博物館とボランティア」と題して、事例報告が行われた。

まず、おきなわワールド・王国歴史博物館の山内平三郎氏により「平成14年度美術館等運営協議会に参加して」と題した参加報告とビデオの上映が行われた。その後、浦添市美術館の宮城篤直氏により「美術館とNPO法人の連携について」と題し、浦添市美術館における友の会のNPO活動について報告があり、最後に南風原文化センターの平良次子氏により「アメリカの博物館とボランティア」と題して、アメリカの博物館におけるボランティア活動の実態について報告がなされた。博物館においてボランティアとの重要性が増していく中、これから継続研究課題として引き続き検討することを確認し、研修を終えた。

シンポジウム終了後、同会場で情報交換会が行われ、各館園の紹介を行い、時間まで互いの情報を交換していた。

翌日6日（金）現地研修会が行われ、本部町の沖縄美ら海水族館を見学した。エントランスホールで、水族館の経緯、概要説明のあと入場し、案内に従って見学させていただいた。

秋期研修会の前に、協会の幹事会を開き、幹事に加え那覇近郊の館園から応援を頼みワーキンググループを結成のうえ今後の研修会の持ち方や、秋期研修会の研修内容についての話し合いを行っている。

秋期の理事会と研修会は10月23日（木）から25日（土）の3日間、名瀬市立奄美博物館の担当で、38名の参加のもと奄美大島にて行われた。

理事会は、奄美博物館の研修室において執り行われ、来年度の総会・研修会の確認、16年度以降の担当館割当、沖博協顕彰者、そして17年度以降の会長・事務局担当館について審議が行われた。このうち、17年度以降の会長・事務局担当館については幹事会を経て今年度中にもう一度理事会を開催することを確認し審議を終えた。

翌日24日（金）9時より現地研修会が行われ、午前中は笠利町の奄美パーク・一村記念美術館を見学させていただいた。去年開館した新しい施設で、沖縄県立博物館の新館移設に向けて、色々と参考になる展示があり、大変勉強になった。同施設のレストランで昼食をとり、午後は史跡として国指定文化財に指定されている宇宿貝塚ドーム、笠利町立歴史民俗資料館、奄美野生生物保護センター等を見学させていただいた。その後名瀬市内の奄美海洋展示館へ移動し見学の後、施設中にあるレストランにて情報交換会が行われた。名瀬市長、名瀬市教育長ご臨席のもと島唄の紹介、解説等を交えながら、和やかに各館の交流、情報交換が行われた。

第3回目理事会は、平成16年3月9日（火）午後2時より県立博物館会議室にて執り行われた。これに先立つ平成15年12月4日（木）、1月29日（木）に同所にて幹事会が開かれ、平成17年度以降の会長・事務局についての審議が行われ、理事会への提案が以下のように決定された。

- ①17年度から3期の会長・事務局を17・18年度南風原町立南風原文化センター、18・19年度読谷村立歴史民俗資料館、20・21年度県立博物館として話を進める。
- ②来年度より幹事会は新たなメンバー（沖縄県平和祈念資料館、沖縄市立郷土博物館、おきなわワールド）を加えて強化していく。

これらの提案が理事会で審議された結果、満場一致で提案が了承された。

平成16年度の総会及び春期研修会は6月3日（木）～4日（金）に浦添市美術館、秋期研修会は10月21日（木）～22日（金）に恩納村博物館の担当で開催されることになっている。

2. 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに相互会員の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年1月に発足してから24年目を迎えた。本年度の会員の内訳は、普通会員438名、準会員2名、賛助会員8社、家族会員76家族（156名）となっており、近年は家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また、友の会の活動も年間を通しての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。

平成15年度の活動内容と事業内容は次のとおりであった。

1. 事業

- (1) 施設見学会：6月28日（土）
沖縄美ら海水族館の見学会を海洋博覧会記念公園教育普及係亀井良昭氏の案内で実施した。
(参加者：31名)
- (2) 離島研修：7月4日（金）～5日（土）
「大神島・伊良部島研修」を平良市総合博物館館長久貝勝盛氏の解説で実施した。
(参加者：13名)
- (3) 展示解説会：8月5日（火）
企画展「旅する種子」展の展示解説を当館学芸員嵩原建二の解説で実施した。
(参加者：10名)
- (4) 体験教室：8月24日（日）
「ほうき作り」を会員の宮国昭男氏を講師に迎え体験した。（参加者：7名）
- (5) 離島研修：9月13日（土）～15日（月）
「西表島」の研修を石垣島うみがめ研究会会长谷崎樹生氏の解説で実施した。
(参加者：15名)
- (6) 海外研修：10月12日（日）～20日（月）
「インド」研修を沖縄県動物愛護センター所長平川宗隆氏の解説で実施した。
(参加者：25名)
- (7) 自然観察会：10月25日（土）
「カルスト見学会」を神谷厚昭氏の解説で実施した。（参加者：21名）
- (8) 県外研修：11月7日（金）～9日（日）
「山形県（米沢）」の研修を（財）文化振興会公文書管理部史料編集室主任専門員小野まさ子氏の解説で実施した。（参加者：15名）
- (9) 文化キャラバン隊：11月20日（木）～22日（土）
伊平屋島で開催された移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。（参加者：6名）
- (10) 展示解説会：11月19日（水）
特別企画展「沖縄織物へのメッセージ—田中俊雄の研究—」の展示解説を、会員の山田葉子氏の解説で実施した。（参加者：15名）
- (11) グスクめぐり：12月14日（日）
北部のグスクめぐりを博物館館長當眞嗣一氏を講師に迎え実施した。（参加者：45名）
- (12) 体験教室：1月24日（土）・31日（土）
アンディイラ・ほうき作りを会員の宮国昭男氏を講師に迎え実施した。（参加者：7名）
- (13) 史跡めぐり：2月7日（土）・14日（土）
「長虹提を歩く」をテーマに会員の阿波根直孝氏を講師に迎え実施した。
(参加者：7日24名、14日17名)
- (14) 講演会：3月27日（土）
「琉球王国時代末期の多良間島～知られざる離島の状況～」をテーマに琉球大学法学部教授高良倉吉氏を講師に迎え実施した。（参加者：212名）

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 会誌（博友）17号・会報（赤い瓦）24号の発行

4. ミュージアムショップの経営

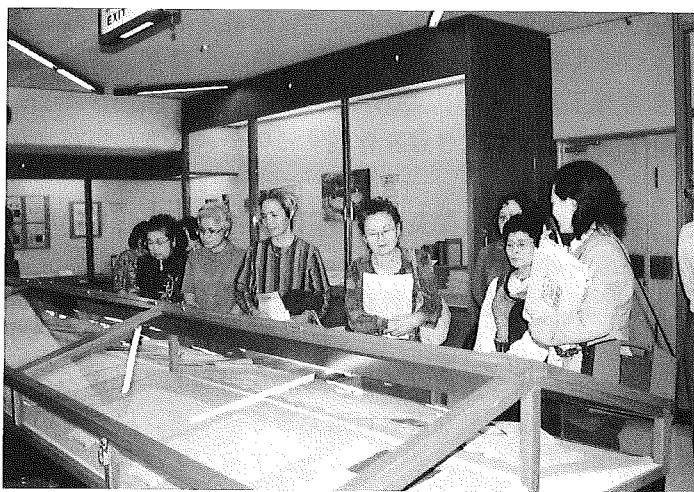
出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・切手・フィルム・飲み物等の販売サービス

5. その他

- サークル活動：グスクサークル、民俗サークル
- 総会及び懇親会（2003年5月26日） 参加者：61名
- 新年会 （2004年1月19日） 参加者：72名



「西表島」自然観察会



企画展「沖縄織物へのメッセージ
—田中俊雄の研究—」解説会

X I 関係法規抄録

○博物館法 昭和26年12月1日 法律第285号
〔最終改正〕平成13年7月11日 法律第105号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に關し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに當つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
 - (2) 名称
 - (3) 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該申請書に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で登録申請書に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項に重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知ったときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたと

き、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむ得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に對し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設 置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所 管)

第19条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 削除

(入館料)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。
(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する軽費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

(1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

(2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

(3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

(4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関する、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等 以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和27年3月20日 政令第47号

〔最終改正〕昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

1 日本赤十字社

2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費

2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄） 昭和47年5月15日 条例第24号

[最終改正] 平成6年12月27日 条例第42号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（抄） 昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号

[最終改正] 平成10年3月31日 教育委員会規則第5号

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課・学芸課・教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1)予算、決算その他会計事務に関する事。
- (2)公印の管守に関する事。
- (3)施設設備の管理に関する事。
- (4)職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5)博物館協議会に関する事。
- (6)他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1)博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。
- (2)博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。
- (3)博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。
- (4)博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関する事。

教育普及課

- (1)博物館資料の利用相談に関する事。
- (2)展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関する事。
- (3)学校その他の教育機関との連絡及び協力に関する事。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号
〔最終改正〕平成12年3月30日 教育委員会規則第17号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慽靈の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館料の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条规定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

(2) 伝染病患者及びめいいてい者と認められる者

(3) その他館長が適当でないと認められる者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い又は公務の選挙に関し特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(現状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報 告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10月までに、教育長に提出しなければならない。
(補 則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則 (平成12年3月30日教育委員会規則第17号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和47年10月2日 教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関するものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会 議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶 務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関する必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例 昭和47年5月15日 条例第37号

[最終改正] 平成9年7月16日 条例第23号

(趣 旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成9年7月16日条例第23号)

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

別表第1 [博物館の入館料] (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領 平成14年3月14日教育長決裁

(目 的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料(以下「資料」という。)の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用
- (2) 同資料の撮影
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用
- (4) 撮影等による複製品の製作
- (5) 原資料等の閲覧
- (6) 教育普及資料の借用

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていな
い場合
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申
請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可
するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容
- (2) 事業の主体者
- (3) 事業計画
- (4) その他必要な事項

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおり
の条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長
が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利 用 申 請 の 内 容 (各申 請様式)	共 通 条 件	資 料 利 用 の 許 可 条 件	個 別 条 件
原 資 料 等 の 借 用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。</p> <p>②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。</p> <p>③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。</p> <p>④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。</p> <p>⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p>	<p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>②資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。</p> <p>④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後にを行うこと。</p> <p>②製作された写真デュープラス、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>④郵送費は申請者が負担すること。</p> <p>⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後にを行うこと。</p> <p>②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。</p> <p>④製作された写真デュープラス、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>	<p>①展示資料の閲覧は休館日の午後にを行うこと。</p> <p>②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。</p> <p>③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p> <p>①貸与期間は1週間以内とする。</p> <p>②資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。</p> <p>④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>
複 製 品 の 製 作 (第3号様式)			
原 資 料 等 の 閲 覧 (第4号様式)			
教 育 普 及 資 料 の 借 用 (第5号様式)			

資料利用申請書
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名: ㊞

団体名:

(担当者氏名)

住所(〒)
TEL: fax:

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名		
借用希望期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(原資料等の借用)

博物 第号
平成 年月日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名		
借用期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： ㊞

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)		1 写真原板使用 2 撮 影			
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	事 項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テ レ ビ				
	ビ デ オ				
	D V D				
	C D				
資 料 名		仕 様	数 量	備 考	
1					
2					
3					
4					
5					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(写真撮影、原板・印画の借用)

博物 第年 月 日
平成

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	区分事項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テ レ ビ				
	ビデオ				
	D V D				
	C D				
資 料 名			仕 様	数 量	備 考
1					
2					
3					
4					
5					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された
製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： 印

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。 納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(複製品の製作)博物 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。 納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： ㊞

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果(論文や著作等)は、当館に1部(1点)納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(原資料等の閲覧)

博物 第号
平成 年月日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： 印

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他		
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 (時) (時)		
行 事 名		参加人員	
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)

博物 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他	行事名
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 (時) ~ (時)
目的		
資料名	数量	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館年報 No.37

2004年6月21日

編集・発行：沖縄県立博物館

住所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

T E L 098-884-2243

F A X 098-886-4353

ホームページ：<http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>

印刷：株式会社 東洋企画印刷

住所：〒900-0024 那覇市古波蔵4-1-1

T E L 098-831-7404

○この刊行物は、299,250円の経費により1,000部作成しました。

○この刊行物は企画は県立博物館が行い、印刷・製本は上記の印刷業者への委託により製作しております。

2004年度沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別展

いま・むかし、おもちゃ大博覧会.....2005年2月15日～3月13日
～入江正彦 児童文化コレクション～

○パネル展

博物館を知ろう5月11日～5月23日
博物館新館ができます8月3日～8月29日
～博物館新館の広報展～

○企画展

新収蔵品展6月22日～7月18日
自然界のエイリアン11月9日～12月12日
～海をこえて持ちこまれた動物たち～

○文化講座

「戦後沖縄の女性」 小野沢あかね（琉球大学助教授）5月15日（土）
「金細工の技」 又吉健次郎（金細工師）6月19日（土）
「琉球漢詩について」 上里賢一（琉球大学教授）7月4日（日）
「沖縄の地形・地質・化石」 座覇泰（県立博物館指導主事）7月31日（土）
「風俗画」 津波古聰（県立博物館学芸課長）8月21日（土）
「近代沖縄における泡盛の変遷」 萩尾俊章（教育庁文化課係長）9月18日（土）
「福建と沖縄の祖先祭祀」 小熊誠（沖縄国際大学教授）10月16日（土）
「海をこえて持ちこまれた動物たち」 太田英利（琉球大学助教授）12月4日（土）
「干潟の野鳥観察」 嵩原建二（県立博物館指導主事）12月18日（土）
「グスク巡り～中部地区～」 當眞嗣一（県立博物館館長）1月23日（日）
「首里の文化財めぐり」 久場政彦（県立博物館指導主事）2月19日（土）
「考古学と歴史研究」 當眞嗣一（県立博物館館長）3月19日（土）
～40年のフィールドワークをとおして～

○博物館シアター（会場：博物館講堂、午前10時～、午後2時～、1日2回上映、入場無料）

子どもの日映画館5月1日（土）

◎15少年漂流記 ◎ロビンソン・クルーソー無人島の冒険

戦争について考える6月5日（土）

◎戦争～子ども達の遺言～ ◎太平洋戦争と沖縄

沖縄の記録映画7月3日（土）

◎沖縄730道の記録 ◎ウリミバエ根絶の記録～総集編～

夏休み「子ども映画館」8月1日（日）

◎火垂の墓

沖縄伝統工芸の世界Ⅰ9月4日（土）

◎壺屋の陶器～神々の器～ ◎壺屋焼き

沖縄伝統工芸の世界Ⅱ10月2日（土）

◎首里織 ◎琉球びんがた

文化の日特別映写会11月3日（水）

◎戦前の沖縄をとらえた映像群（解説＝玉城朋彦）

○博物館体験学習教室（定員あり）

「サトウキビを栽培して黒糖をつくろう」児童・一般対象

- ①苗取りと植え付け4月24日（土）
- ②観察学習と手入れ10月23日（土）
- ③刈り取り2005年1月15日（土）
- ④黒糖づくり2005年1月16日（日）

「総合的な学習のための豆腐づくり」教育関係者・一般対象

石うすを使った豆ひきと豆腐づくり5月22日（土）

「木の実でおもちゃをつくろう」児童・一般対象

縄文笛、コブタ、ウサギなどをつくろう7月24日（土）

「化石のレプリカをつくろう」児童・一般対象

サメの歯、二枚貝などのレプリカづくり8月7日（土）～8月8日（日）

「竹のおもちゃをつくろう」児童対象

笛、せみ、ガリガリトンボ8月14日（土）

「しつくいシーサーをつくろう」児童・一般対象

しつくいづくり、骨組みづくり、作品完成、鑑賞会9月25日（土）

「総合的な学習のための黒糖づくり」教育関係者・一般対象

キビしおり、黒糖づくり12月11日（土）

○移動博物館（北大東村開催）2004年11月19日～20日